



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立  
大学機構



岐阜大学

第8号

岐阜大学

国際交流年報

2022



Gifu University Organization for Promotion of Globalization GU-GLOCAL

岐阜大学 グローカル推進機構

# Table of contents

## 目次

学長メッセージ

岐阜大学国際交流年報 第8号の発行にあたって

<b>I</b>	<b>国際化推進体制</b> .....	<b>5</b>
1.	岐阜大学の国際化推進体制 .....	5
	各部門の活動報告 .....	6
	学内の国際化をサポートする体制（日本語・日本文化教育体制／保健管理体制） .....	10
2.	海外大学・機関等との学術・学生交流協定 .....	13
	本年度に新規締結した協定大学等 .....	13
	大学間学術交流協定締結大学・機関マップ .....	14
	部局間学術交流協定締結大学・機関マップ .....	16
	外国人留学生在籍数 .....	18
	本学学生の海外派遣実績 .....	19
	 トビタテ! 留学 JAPAN とは? .....	20
	本学教職員派遣実績 .....	21
	外国人研究者・来訪者受入実績 .....	21
	国際協力活動（JICA 事業） .....	22
	短期研修プログラム（サマースクール／Collaborative Video Making Program／ Winter School／Spring School Program） .....	23
3.	国際交流活動 .....	26
	国際協働教育・地域国際化関連 .....	26
	留学推進・国際企画関連 .....	28
	留学生就職促進プログラム関連 .....	31
	日本語・日本文化教育センター関連 .....	32
	学内の国際化の取り組み .....	34
	大学の世界展開力強化事業 .....	37
	全国大学 JDP 協議会 .....	38
	留学生就職促進プログラム .....	39
	岐阜地域留学生交流推進協議会 .....	40
	ユネスコスクール活動支援 .....	41
<b>II</b>	<b>各学部・研究科等の主な国際交流活動</b> .....	<b>42</b>
1.	教育学部 .....	42
2.	地域科学部 .....	43
3.	医学部・医学系研究科 .....	44
4.	工学部 .....	45

5. 連合農学研究科	46
6. 保健管理センター	47

### III 大学の国際化と学生支援 48

リトアニアとの交流	毛利 哲也	48
大学の世界展開力強化への取り組み（インドを対象として）	植松 美彦	51

### IV 資料 54

1. 令和4年度グローバル推進機構名簿	54
2. 協定一覧	56
3. 本学の国際関連活動	59
学長表敬訪問（来訪）	59
学長メッセージ	59
令和4年度国際関連事業一覧（全体）	59
4. 大学間学術交流協定先との交流状況	61
5. 海外オフィス・研究施設	63
6. 国際共同研究等の採択実績	63
（公財）田口福寿会	63
7. 留学生の就職支援・留学生の地域貢献	63
8. 令和4年度における各種広報資材	64

# 学長メッセージ

## 若者の夢を実現する岐阜大学

2020年より3年間コロナ禍にて世界は歴史的なダメージを受けましたが、ようやくポストコロナに向けて、新たな時代の幕開けとなりました。岐阜大学と名古屋大学も国立大学法人東海国立大学機構として4回目の春を迎えました。そして、「Make New Standards for the Public」というミッションを共有し、ビジョンを「地域共創、特色ある研究、イノベーション、教育を戦略的に推進し、地域と人類の課題解決に貢献する『地域活性化の中核拠点』となる」と定め、世界を見据えた上で、ビジョンを実現するための戦略を策定いたしました。

1949年の創立以来、受け継がれてきた岐阜大学のモットーは「人が育つ場所」、育成の目標は「学び究め貢献する」人材です。Society 5.0の時代を担う人材育成として、デジタル技術を有効活用した教育の質の向上により、文理横断的・異分野融合的な知を備えた人材の育成や国際競争力を高め、国際通用性のある質の高い教育を実践します。それにより「国際化を通じてより一層の地域貢献」を行う地域中核大学として、国内外で活躍する次世代を担うリーダーとなり得る人材を育成することを目指します。特に国際化について確認する基礎資料が岐阜大学国際交流年報であり、2015年度版から刊行が始まりました。日本国内の一定地域と海外の一定地域とが教育、研究、あるいは社会・経済活動についてマッチする課題を共有し、また認識し、それを解決することによって得られる成果が双方の地域振興に結実するという実践的な国際化が目標です。

第3期中期目標・中期計画の6年間では多数の新たな大学間、部局間交流協定を締結したのみならず、ESLプログラム（アルバータ大学・グリフィス大学と共同開発した英語研修プログラム）の開始など事務職員まで含めた海外研修制度の整備、留学生を対象とした就職支援の強化なども立ち上げられています。2022年度には「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」に採択され、インド工科大学グワハティ校、岐阜・東海地域及び北東インド地域の産官学と連携した各種取り組みを行いました。現在、他地域の大学との新たなジョイント・ディグリー（JD）の設置も検討中です。このJDという教育プログラムは立ち上げるうえで大変難度の高いものですが、現在日本国内で12大学27プログラムあるJDのうち、岐阜大学が4本、名古屋大学が7本と、約半数を占めています。2022年4月からは全国大学JDP協議会が設置され、岐阜大学が会長を担当しています。

第4期中期目標・中期計画に沿い、社会貢献・国際化の観点から、知的成果を社会還元するため社会連携・産学連携を推進するアカデミア拠点となり、世界トップレベルの研究により、社会展開の好循環の確立を目指しています。



岐阜大学長 吉田和弘

2023年5月24日

岐阜大学長 吉田 和弘

## 岐阜大学国際交流年報 第8号の発行にあたって

岐阜大学の国際交流に関する年報「岐阜大学国際交流年報」も第8号刊行を迎えました。発行母体である岐阜大学グローバル推進機構(Gifu University Organization for Promotion of Glocalization: GU-GLOCAL)は、平成31年4月1日に「大学の国際化とその地域還元」の理念のもと、国際戦略本部の組織改編によって誕生して5年を迎えました。地域の中核拠点大学として、大学の国際化を進める方向性とその目的を込めた名前を持つこの組織では、全学の国際化活動の支援に加えて、様々な学外者と連携しながら地域の国際化の推進を図っています。この年報では、岐阜大学の国際化に関わる活動を記した、岐阜大学国際交流ニューズレター記事やグローバル推進機構の各部門及び、学内部局が発信した記事などの掲載を中心に、令和4年度の国際活動（教育、研究、地域貢献）についてまとめています。

令和4年度はコロナ禍の影響が残ったことから、年度前半は学生・教員ともに渡航・入国共に制限され、人的交流が極めて制限される状況でした。そのような状況ではありましたが、年度後半には新型コロナウイルス感染症による渡航制限が緩和され、令和4年度・大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」に採択されたことなどにより、渡航を伴う様々な事業に取り組んだ年となりました。大学の世界展開力強化事業は、博士課程2専攻、修士課程1専攻を実施するインド工科大学グワハティ校と連携して、新しい国際協働教育を構築する野心的なものとなっています。具体的には、地球規模課題を理解しそれを地域の問題として解決する人材を「グローバル人材」と定義し、Glocalist（学士）、Glocal Expert（修士、博士レベル）を国際連携修了書（International Joint Certificate）として保証するプログラムを開発・実施するものとなっています。令和8年度までの事業期間に、新しい教育の仕組みを構築しながら、日印の架け橋となる高度人材の養成に注力する予定です。尚、本プログラムの一環として、ウィンタースクール（短期招聘）、スプリングスクール（短期派遣）プログラムを実施し、さらにジョイント・ディグリープログラム（JDP）を中軸として産官学金が議論を深める岐阜 JD シンポジウム及びグワハティ JD シンポジウムを実施しました。ウィンタースクールには、JD 実施大学であるインド工科大学グワハティ校（IITG）・マレーシア国民大学（UKM）の学生が参加し、スプリングスクールには、教育学部、地域科学部、工学部、応用生物科学部の学生が IITG への派遣プログラムに参加しました。このような取り組みを通じて、国際通用性が高い人材育成とともに、本学の国際化の成果を地域に還元することが期待されます。

今年度、東海国立大学機構を中心として JD プログラム（JDP）協議会が設置され、本学がその会長校を務めることとなりました。この協議会は、今後の全国的な JDP 発展のために議論を重ねる場であり、JDP に関わる諸問題の整理と要望の取りまとめ、さらには新たな JDP 実施大学への情報提供・支援など、大学における JDP の活性化による国際化の推進に貢献することができれば良いと考えています。

この原稿を執筆している令和4年度末では、入国制限が急速に緩和されている状況です。このまま順調に出入国が活性化し、多くの留学生の受け入れと派遣の支援をできることを期待しています。

本年報では、この1年間の大学としての国際活動（含：岐阜大学国際交流ニューズレター記事）と、各部局における主な国際活動を統合して掲載しましたので、本学の全域において国際化の歯車が稼働していることをご理解いただけたと思います。

最後に、岐阜大学グローバル推進機構（GU-GLOCAL）は、本学の「地域社会に根差した国際化」の実質化をより一層推進してまいります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



グローバル推進機構長  
小山 博之

2023年4月1日

グローバル推進機構長 小山博之

# I. 国際化推進体制

## 1. 岐阜大学の国際化推進体制

岐阜大学はジョイント・ディグリープログラム（JDP）を基軸としたグローバルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により、地域に根ざした国際化を実現することを「岐阜大学のミッション・ビジョンと戦略」に掲げている。グローバル推進機構では、教員と事務職員が協働し、地域に根ざした国際化と成果の地域還元を推進するため、グローバル推進機構長のもとに、国際協働教育推進部門、地域国際化推進部門、留学推進部門、国際企画部門の4部門を設置し、全学的な組織として各部局との連携により岐阜大学のさらなる国際化を目指している。



図1 グローカル推進機構ホームページ（左）とHPへのリンク（QRコード：右）



図2 THE 世界大学ランキング日本版掲載：冊子（左）とYouTubeチャンネル（右）

## 各部門の活動報告

### 令和4年度国際協働教育推進部門活動報告

部門長 上野 義仁  
(応用生物科学部 教授)

#### 1. 活動内容及び成果

本部門では、グローバルな視点を持つ学生を育成するため、また同時に国際協働教育プログラムを担う教職員の国際性を高めるため、ジョイント・ディグリー（JD）などの国際性が高い学位プログラムを実施している。

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響からJD学生の受入れ・派遣が困難となり、代替としてオンラインでの指導を行うケースもあったが、令和4年度より本格的に受入れ・派遣が再開した。

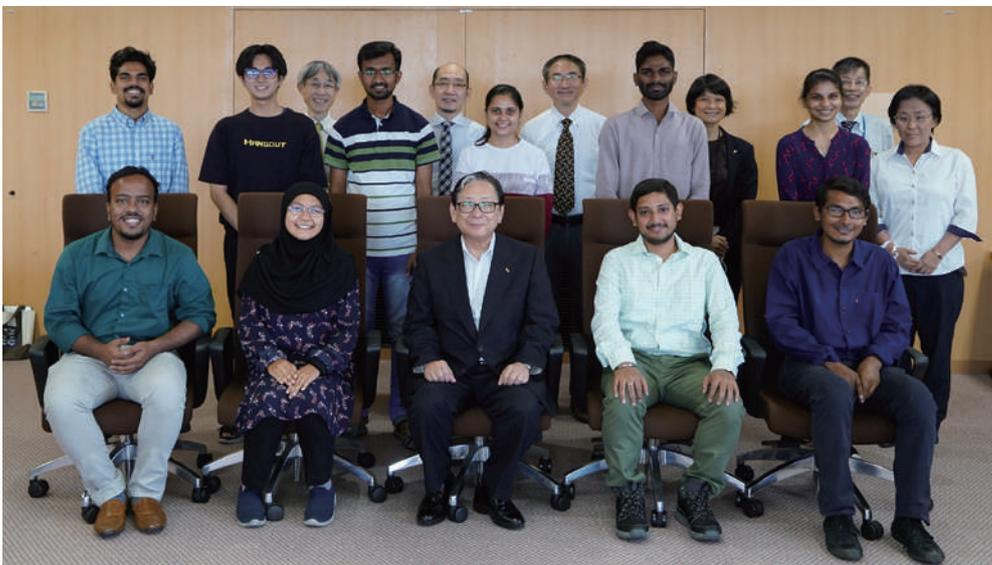
令和4年度には、インド工科大学グワハティ校（IITG）から修士課程5名、博士課程6名、マレーシア国民大学（UKM）から博士課程1名の合計12名のJD学生が来日し、また修士課程の岐阜大学JD学生1名がIITGへ渡航した。

7月7日には、来日済みのJD学生と吉田 和弘学長（本学学長）との懇談会が開催され、学長からは、JDプログラムにより日本、IITG、UKMの交流がより促進されていることや、留学中の学びを大切にしてほしいことなど、JDプログラム学生への激励の言葉があった。

また、前年度に続き、11月30日・12月1日の2日間にわたり、「共創の場としてのジョイント・ディグリー～教育研究の国際化と地方創生～」と題した国際シンポジウムを、Zoom Webinar及び一部を対面にて開催した。シンポジウムはメインシンポジウム、学術セッション及び産官学金連携セッションからなり、本学関係者のほか、東海国立大学機構、名古屋大学、文部科学省、国内外の研究者、企業関係者及び行政、大学関係者など多くの参加者があり、JDプログラムを様々な角度から取り上げた大変有意義なシンポジウムとなった。また、JD学生と教員の運営により、2023年3月9日・10日の2日間、GILP（Japan-India Educational Collaborated Certificate Programs）シンポジウムを初めて開催し、JD協定校などから76名が参加した。

#### 2. 課題及び次年度の取組方針

令和5年度は、JDプログラムの設置から5年を迎える年となる。これまでの活動を継続しつつ、渡航の再開を踏まえ更なる交流を推進する。



## 令和4年度地域国際化推進部門活動報告

部門長 小山 博之  
(応用生物科学部 教授)

### 1. 活動内容及び成果

令和4年度は前年度コロナ禍の影響を残しつつも、徐々に対面での行事の実施が可能となる1年となった。岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム(産官学金連携セッション)、愛岐留学生就職支援コンソーシアム事業における岐阜県内ワークショップ(岐阜県、岐阜県経営者協会、JETRO岐阜と本学が共催)では、参加者がその場に集まる対面形式で実施することができた。

地域国際化推進部門が中心となって実施するグローバル化のためのSDGs勉強会は、遠隔方式(Zoom)が定着し、東海国立大学機構の構成校である名古屋大学からの講演も含めて、コロナ禍以前では難しかった遠方の演者による話題提供を受ける機会を設けることができた。ジョイント・ディグリーシンポジウムでは、インド工科大学グワハティ校(IITG)、マレーシア国民大学(UKM)など海外からの遠隔参加も含む形で実施することができた。上記の一連の取り組みを通じて、国際活動におけるオンライン会議システムの利用は極めて効果的であることを認識すると共に、対面で行う行事の大切さも実感できた。

遠隔(Zoom Webinar)と対面を組み合わせ実施した岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム(11月30日・12月1日)では、「共創の場としてのジョイント・ディグリー～教育研究の国際化と地方創生～」と題したメインセッションに加えて、学術セッション「持続可能な地域開発：SDGsとその先に向けて」、産官学金連携セッション「国際連携JDを基軸とする地方創生」を実施し、企業・自治体からの参加も含め延べ200名以上の参加を得ることができた。メインシンポジウムでは、基調講演に文部科学省高等教育局参事官(国際担当)渡辺 栄二氏を迎え、ジョイント・ディグリープログラム(JDP)修了生からのメッセージに続き、経済産業省通商政策局南西アジア室 総括補佐 河合 真衣氏より人材育成の観点からの講演をいただき、パネルディスカッション～テーマ「JDによる社会で活躍する高度人材育成」～を、文部科学省、本学、名古屋大学、長崎大学が参加して議論した。学術セッションでは、国内外の演者による脱炭素技術の動向を議論し、産官学金連携セッションでは、学校法人先端教育機構、JICA 経済開発部などの参加者が、「SDGs対応の紹介」や「インド事業と脱炭素」を中心に議論を進めた。

「グローバル化のためのSDGs勉強会」は、バイオエコノミーへの転換や脱炭素化社会の実現に貢献する技術を中心に構成し、例えば、「ココロギを食べるとカーボンニュートラルに近づく話」(講師 岐阜大学応用生物科学部 今泉 鉄平助教)や、「カーボンニュートラルを目指した木材建築」(講師 名古屋大学生命農学研究科 山崎 真理子教授)などにより、グローバル化におけるSDGsを支える基盤技術に関する理解を深めることができた。

岐阜で実施する「岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム」に加えて、2023年3月3日にはインド工科大学グワハティ校において、日印二国間シンポジウム2023(IJBS-2023)が開催された。本シンポジウムには、本学教員11名に加えて、日本からの参加者を含む4社の企業が参加して、北東インドの産官学金機関と交流・意見交換を行った。

なお、本部門が所掌する「愛岐留学生就職促進プログラム」では、本学、岐阜県、岐阜県経営者協会及びジェトロ岐阜が連携して岐阜地区ワークショップを対面で実施し、この地域のグローバル化推進を担う人材育成について理解を深めることができた。

### 2. 課題及び次年度の取組方針

令和5年度も、ジョイント・ディグリーシンポジウムとSDGs勉強会を連動させることで、地域の国際化を進めることが期待される。

## 令和4年度留学推進部門活動報告

部門長 嶋 睦宏  
(工学部 教授)

### 1. 活動内容及び成果

約3年間にわたり社会に大きな影響を与え続けた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止に関わる出入国制限措置や煩雑な手続きが段階的に緩和される中、令和4年度は国境を越えた学生のモビリティも徐々にではあるが回復し、英語研修プログラムについては3年ぶりに現地派遣が実現した。具体的には、8月～9月に夏季アルバータ大学 ESL プログラム（Summer Alberta ESL）およびグリフィス大学 ESL プログラム（Summer Griffith ESL）を、2023年2月～3月に春季アルバータ大学 ESL プログラム（Spring Alberta ESL）を約1か月の期間実施し、Summer Alberta ESL 6名、Summer Griffith ESL 31名、Spring Alberta ESL 1名の計38名が参加した。夏季プログラムでは、現地滞在中に一部の参加者が COVID-19 検査で陽性となり帰国日程が延期となる事例もあったが、最終的に全員が無事元気に帰国し、参加者の多くからは貴重な学びと経験を得ることができたとの声が聞かれた。一方、夏季アルバータ大学 EST プログラム（Summer Alberta EST）については、参加希望者が他大学も含めた最少催行人数に達せず令和4年度は実施されなかった。また、岐阜大学サマースクール受入プログラムについてもオンラインでの実施に向けて準備を進めたが、コロナ禍での出入国制限措置等の影響もあり、参加希望者が最少催行人数に達せず実施を見送った。本学に在学する外国人留学生の生活支援についても、特に国際交流会館などの住環境をはじめとする修学環境のさらなる整備などについて活発な意見交換を行った。

### 2. 課題及び次年度の取組方針

課題として、約3年間続いたコロナ禍で国境を越えた学生のモビリティが低調であったため、協定大学との連携をあらためて強化し、次年度も引き続き派遣プログラムと受入プログラムの更なる充実を図り、実質的な人的交流を進めたい。具体的には、より多様性が尊重される国際社会へ向けて次世代の育成が大学においても重要な使命となる中、国際語としての英語の語学学習にとどまらず、広く異文化への理解にも重点を置いたプログラムの提供へ向けてさらに努めたい。また外国人留学生の生活支援についても、更なる修学環境の整備に努める。



## 令和4年度国際企画部門活動報告

部門長 北野 信哉  
(グローバル推進機構国際企画調整役)

### 1. 活動内容及び成果

本部門は、学術交流・協定支援、国際交流に関する IR、国際広報及びキャンパスの国際化支援を担当した。令和4年度は、10名の教員と5名の事務職員から構成され、部門長は事務職員である国際企画調整役、副部門長は松井 真弓助教、部門員には担当事項（年報、学術交流・協定、IR、広報誌、HP、キャンパス国際化）を決めて対応願うこととした。基本的には部門長、副部門長、国際総務室、留学支援室で構成する部門WG（月1回開催）を中心に活動し、必要に応じて国際企画部門会議等により担当部門員や全部門員への意見照会を行った。

部門WGで1年間定型的に取り上げた事項は、①学術交流・協定支援、②国際交流に関するIR（国際交流年報を含む）、③国際広報（ホームページ、NEWS LETTER、チラシ）、④卒業した留学生のネットワークづくり、⑤キャンパスの国際化支援（事務職員の英語力強化を含む）、⑥国際月間、⑦年度計画への対応である。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響が段階的に緩和される状況であったが、依然、制限はある中で、以下のとおり活動を行った。

①については、毎月、学術交流協定の更新状況を確認し、協定大学の担当者と連絡を取りながら、協定書の更新作業を行った。②については、例年どおり国際交流年報及び国際IRデータブックを刊行し、継続的なデータ収集とその活用を行った。③については、NEWS LETTERの発行、ウィンタースクール報告書の作成、グローバルリーダーコースちらしの作成等のほか、ミニストップ岐阜大学店にグローバル推進機構の活動を紹介したポスターを掲載した。ホームページについては、令和4年度に新たに採択された大学の世界展開力強化事業「インド太平洋地域等との大学間交流形成支援」の情報を掲載したほか、奨学金のページを随時更新し、問合せ先も部局別に示すこととした。④については、例年どおりNEWS LETTERのデータを卒業生に送付したほか、本学卒業生が事務局を務める上海オフィスによる広報活動等への支援を行った。また、8月には、インドネシア同窓会の事務局長及び同窓生がグローバル推進機構を訪問し、神原副学長、植松グローバル推進機構長及び関係教職員と今後の活動や交流についての意見交換などを行った。⑤については、20代及び30代の全事務職員を対象にTOEIC Listening & Reading Testをオンラインテストで実施した。結果として、600点以上の職員数は増加したものの、職員の転出などにより微増にとどまった。また、協定大学であるアルバータ大学によるオンライン英会話研修も昨年度、一昨年度に引き続き実施した。本学の職員とともに名古屋大学の職員も参加し、東海国立大学機構の職員間の交流も行われた。また、文部科学省高等教育局の職員がオブザーバー参加により視察を行った。⑥については、10月を国際月間として実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため学長主催国際交流パーティに代えて外国人留学生・研究者からの質問に吉田 和弘学長が答えるインタビュー動画を配信し、旅行作家蔵前仁一氏講演会「僕は旅行人」、生協による世界の料理フェア、ランチキッチンカーによる国際料理フェア、岐阜地区ワークショップ、協定大学の学生とのオンライン交流会を開催した。

### 2. 課題及び次年度の取組方針

新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に緩和されてきており、これまで対面で行うことができなかった活動も可能になることが考えられる。例えば、今年度実施できなかった職員の実地での英会話研修などである。一方でコロナ禍の間培ってきたオンライン交流などの新たな活動形態もミックスさせながら第4期中期目標・中期計画の期間の評価指標をクリアしていけるよう進めていきたい。

## 学内の国際化をサポートする体制

### 【日本語・日本文化教育体制】（日本語・日本文化教育センター）

岐阜大学における日本語・日本文化教育は日本語・日本文化教育センター（略称：日文センター）が担っている。日文センターでは、対象学生によって異なる様々なコースやプログラムを提供しているが、昨年度同様、令和4年度もコロナ禍のため、従来とは異なるコース・プログラム運営を行った。（詳細は『岐阜大学日本語・日本文化教育センター紀要2022』参照）

#### （1）日本語研修コース

岐阜大学に在籍する大学院生、研究生、交換留学生を対象とした1学期間のコースで、前期・後期に開講される。「集中コース」と「一般コース」があり、前者は、集中的に（週10～12コマ）日本語を学び、日本語の習得・向上を目指す。後者は、専門の研究が中心であるため、まとまった日本語学習の時間が取れない学生向けの、授業数が少ない（週1～6コマ）コースとなっている。また、未習者のみを対象とする、日本語を初めて学ぶ学生が日本語を親しむきっかけとなる授業を提供する「生活日本語コース」がある（週4コマ）。以上、生活日本語コースはゼロ初級のみ、集中コースは初級（A）、初中級（B）、中級（C）の3レベルのクラス、一般コースは初級（A2）、初中級（B）、中級（C）、中上級（D）の4レベルのクラスが提供されている。学期開始前に学内公募が行われ、指導教員による申請によってコースが、そしてプレイスメントテストの結果によって当人のレベルにあったクラスが決定される。

#### （2）日本語・日本文化研修コース

自国の大学で日本語・日本文化を専攻する文部科学省奨学金留学生と交換留学生を対象とした、毎年10月に始まる約1年間のコースである。日本語授業や全学対象の授業を受けることにより日本語能力を向上させ、日文センターより提供される多彩な文化科目の受講、地域への見学旅行等により、日本文化・社会について深い見識を養うことができる。コースの終わりには、担当教員の指導のもと、日本語・日本文化に関わる修了論文を完成させ、研究発表を行う。

#### （3）日本社会文化プログラム

日文センターに所属する交流協定大学の交換留学生（日本語・日本文化学習を希望する日本語初級～中級レベルの学生）を対象としたプログラムである。「異文化理解」と「日本文化理解」の二つのステップで、日本の社会や文化に関する知識を身につけることを目的に、半年ないしは1年間の研修期間で実施する。日本語学習と共に、日本文化を実践的に学ぶ機会を提供しており、「日本文化へのいざない」という科目では、本学客員教授で江戸千家宗家蓮華菴家元である川上閑雪宗匠による茶道の講義・実践が学べる。

#### （4）全学共通教育（日本語・日本事情クラス、人文科学科目）

各学部に在籍する留学生と交換留学生を対象とした、上級レベルの日本語と日本事情に関する科目（5科目）を開講している。また、人文科学科目（7科目）も開講しており、その中には留学生と日本人学生の合同授業もある。

#### （5）交流ラウンジ

授業以外での日本語・日本文化教育の場として、日文センター内には「交流ラウンジ」が設置されている。外国人留学生と日本人学生との交流、日本人学生チューターによる勉学・生活支援、パソコンの利用等、多様な活動ができる。不定期にイベントも開催されており、留学生と日本人学生双方にとって有意義な場所となっている。なお、令和4年度もコロナ禍のため、イベントはすべて中止となったが、チューター活動は後期のみ実施した。



## (2) 外国人留学生・研究者来日時健康診断（胸部 X 線、感染症抗体検査含む）受診の徹底

外国人留学生・研究者には、来日後速やかに、本学新入生と同じ質の高い健康診断とその結果に基づく健康管理指導を提供している。特に、全員に麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘の抗体検査を実施し、抵抗力（抗体価）が不十分な者には追加予防接種を積極的に勧奨している。生来初めて健康診断を受けるという留学生も少なくないので、目的や結果について英語で丁寧に説明している。

## (3) 海外渡航に向けた「健康の手引き」を用いた渡航時の健康管理指導

海外へ渡航する学生及び教職員に向けて、海外渡航時に健康面で注意すべき事項をわかりやすくまとめたパンフレットを提供し、予防接種準備を含め渡航先に応じた健康管理について個別に面談指導している。（健康の手引き 2021年4月 第四版：<http://www.hoken.gifu-u.ac.jp/img/tebiki.pdf>）

## (4) 「Health Management on Campus」の提供

外国人留学生・研究者全員に英語の健康啓発本を来日直後に提供し、自己健康管理、健康意識の向上につなげている。外国人留学生に対しては同伴家族の案件も含め幅広い健康相談に対応している。

## (5) 外国人受け入れ教職員向け冊子「International Students（海外からの留学生）への健康管理の手引き」（2020年9月 第一版：[http://www.hoken.gifu-u.ac.jp/img/tebiki\\_ryugakusei.pdf](http://www.hoken.gifu-u.ac.jp/img/tebiki_ryugakusei.pdf)）の提供

教職員の資質向上のために、留学生の健康管理支援に必要な知識とスキル情報について詳述された冊子をホームページで公開すると同時に適宜、学内教職員に提供し、留学生支援環境向上に役立てている。



## 2. 海外大学・機関等との学術・学生交流協定

本学では、組織的・計画的な研究者・学生の交流及び教育に関する情報交換等を推進するため、積極的に大学間学術交流協定を締結している。2023年3月31日現在、19ヶ国49大学との大学間学術交流協定を締結しているほか、各部局においても様々な学術交流協定を締結している。

一覧はⅣ. 資料に掲載し、本年度に新規締結した協定大学等の詳細を以下に記載する。

### 本年度に新規締結した協定大学等

#### 大学間

#### 令和4年度に新規締結した学術交流協定大学等

##### ①バンドン工科大学（インドネシア）

概要	バンドン工科大学は理工系ではインドネシアの最高水準の総合理系大学の一つである。物理や化学、工学等の分野において、インドネシアにおいて優れた基礎教育を実施しており、また研究の分野でも目覚ましい成果を上げている。日本からの留学生が増えており、また日本へ留学を希望する学生も多く、本学との交流は良い成果を生み出すと期待される。		
目的	工学系では、両校の教員・学生の行き来やシンポジウムを開催をとおし、研究者交流をさらに密なものにする。またバンドン工科大学では人工知能センターが2019年に設立され、同じく同年に設立された本学人工知能研究推進センターとの交流により、将来的な相乗効果が見込める。 農学系では、IC-GU12の協定大学として、博士課程におけるサンドイッチプログラムなどの教育連携を通じて教員間の共同研究や学生の交流を推進する。		
協定発効日	2022.9.26	協定期間	5年間
年間交換留学可能学生数	3		

#### 令和4年度に学術交流協定の更新を完了した大学

	協定大学名	国・地域	最新発効日	有効期間
1	内蒙古大学	中国	2022年2月6日	5年
2	内蒙古師範大学	中国	2022年3月14日	5年
3	浙江大學	中国	2022年4月15日	5年
4	マギル大学	カナダ	2022年6月30日	5年
5	ガジャマダ大学	インドネシア	2022年7月21日	5年
6	レイクヘッド大学	カナダ	2022年10月11日	5年
7	エルフルト大学	ドイツ	2022年12月4日	5年
8	ソウル科学技術大学校	韓国	2023年4月1日	5年
9	吉林大学	中国	2023年5月12日	5年

#### 令和4年度に大学間学術交流協定を終了した大学

	協定大学名	国・地域	締結日	終了日（年度）
1	ユタ大学	アメリカ	1997年6月1日	2022年5月31日（2022）
2	木浦大学校	韓国	2008年2月26日	2023年2月25日（2022）

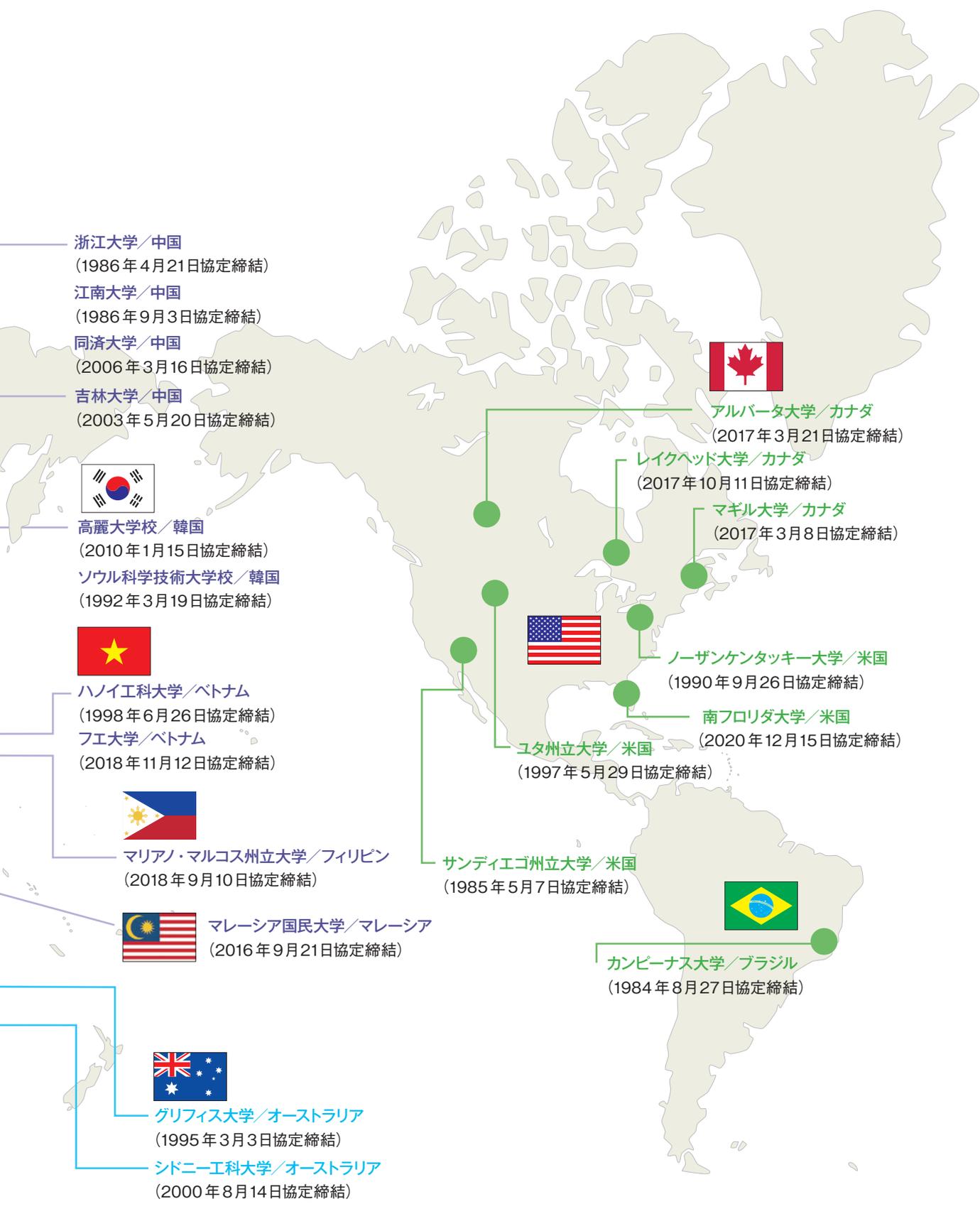
#### 部局間

#### 令和4年度に新規に締結した学術交流協定大学等

部局	締結先	国・地域	締結日
工学部	タイ国立電子コンピューター技術研究センター	タイ	2023.1.29

## 大学間学術交流協定締結大学・機関マップ (2023年3月31日現在 19ヵ国49大学)





## 部局間学術交流協定締結大学・機関マップ (2023年3月31日現在 26ヵ国1地域63学部)





表示アイコン	協定部局	表示アイコン	協定部局
教	教育学部	連創	連合創薬医療情報研究科
地	地域科学部	流	流域圏科学研究センター
医	医学部	保	保健管理センター
工	工学部	イ	インフラマネジメント技術研究センター
応	応用生物科学部	複	複合材料研究センター
連農	連合農学研究科	ス	地域連携スマート金型技術研究センター
連獣	連合獣医学研究科	基盤	科学研究基盤センター
共獣	共同獣医学研究科	地工	地方創生エネルギーシステム研究センター



- 教 山西師範大学 / 中国
- 医 浙江大学 医学院 / 中国
- 工 南京師範大学 エネルギー機械工学院 / 中国
- イ 中国科学院水利部 水土保持研究所 / 中国
- イ 中国水利水電科学研究院 岩土工程研究所 / 中国



- 医 忠北大学校 医学部 / 韓国
- 工 全南大学校 工学部 / 韓国
- 工 慶北大学校 工学部 / 韓国
- 工 忠南大学校 工学部 / 韓国
- 工 柳韓大学校 工学系列 / 韓国
- 応 国立獣医科学検疫院 獣医科学研究所 / 韓国
- 医 ソウル大学校 医科大学 / 韓国



- ス 台湾国立高雄科技大学 先端金型研究開発センター / 台湾
- 工 長庚大学 工学部 / 台湾
- 地 国立中央大学 文学院 / 台湾



- 医 シカゴ大学 医学部 / 米国
- 工 アメリカ国立衛生研究所
- 国立心肺血液研究所 / 米国
- 地 アーカンソー大学
- フォートスミス校 / 米国

● 医 ハワイ大学 医学部 / 米国

● 医保 南フロリダ大学 医学学群 / 米国



- 連農 チュイロイ大学 / ベトナム
- 連創 基盤 タイピン医科薬科大学 医・薬科学技術センター / ベトナム



● 応 南太平洋大学 自然科学・工学・環境学群 / フィジー



● 工 ブルネイ・ダルサラーム大学 理学部 / ブルネイ・ダルサラーム



● 地工 東ティモール国立大学 工学部 / 東ティモール

## 外国人留学生在籍数

5月1日現在の岐阜大学の外国人留学生在籍者数は292名（総学生数7,404名の3.94%）で、前年5月1日現在の297名と比べ5名（1.02%）減少した。

出身国別に見た場合、上位3カ国は1位中国112名（38%、前年度－4名）、2位インドネシア42名（14%、前年度－11名）、3位マレーシア23名（8%、前年度＋4名）であった。地域別に見た場合、91.7%がアジアからの学生であり、次いでアフリカ（5.1%）、ヨーロッパ（3%）という内訳となっている。

### 学部・研究科別内訳

部 局 等	学部		修士 専門職学位		博士		日研究生	その他	合 計
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規			
教育学部／教育学研究科（専門職学位・修士）	0	0	3	4					7
地域科学部／地域科学研究科（修士）	9	7	23	0					39
医学部（医学科・看護学科）／医学系研究科（修士／博士）	7	0	0	0	7	0			14
工学部／工学研究科（博士）	25	9			58	0			92
応用生物科学部	8	4							12
社会システム経営学環	0	1							1
自然科学技術研究科（修士）			57	4					61
共同獣医学科（博士）					4	1			5
連合農学研究科（博士）					50	0			50
連合獣医学研究科（博士）					1	0			1
連合創薬医療情報研究科（博士）					2	0			2
教育推進・学生支援機構									0
流域圏科学研究センター	0	2	0	0	0	0			2
日本語・日本文化教育センター	3	0	0	0	0	0	3		6
ネットワーク大学コンソーシアム岐阜								0	0
合 計	52	23	83	8	122	1	3	0	292

### 連合大学院別内訳

研 究 科	正規		非正規	
	学生数	内配置大学が 岐阜大学	学生数	内配置大学が 岐阜大学
連合農学研究科（博士）	50	39	0	0
連合獣医学研究科（博士）	1	1	0	0
連合創薬医療情報研究科（博士）	2	2	0	0
合 計	53	42	0	0



## 本学学生の海外派遣実績

本学学生の大学を通じた海外渡航実績は以下のとおりである。なお、岐阜大学基金等の海外渡航における助成金においては、私事渡航に対しても申請があり採択された場合、支援を行っている。

表 1 本学学生の海外渡航者数（プログラム別・延べ数）

種別		渡航者数	
全学	大学間学術交流協定に基づく交換留学	14	
	岐阜大学サマー スクールプログラム	夏季アルバータ大学 ESL プログラム	6
		夏季グリフィス大学 ESL プログラム	31
		夏季アルバータ大学 EST プログラム*	0
岐阜大学スプリング スクールプログラム	インド工科大学グワハティ大学との交流プログラム	10	
部局	教育学部	総合文化海外実習	9
		短期留学・研修	0
	地域科学部	部局間学術交流協定に基づく交換留学	0
	医学部	海外臨床実習	6
	工学部・ 自然科学技術研究科・ 工学研究科	工学系協定校学生交換留学プログラム（派遣）	7
		自然科学技術研究科 / 工学研究科グローバルリーダー養成のためのインストラクショナル・インターンシッププログラム	3
		国際学会発表奨学金プログラム	0
	応用生物科学部・ 自然科学技術研究科	遺伝資源の有効利活用を目指すグローバル職業人養成プログラム	0
		生物多様性と遺伝資源に係る南部アジア国際協働教育プログラム	0
		国際獣医学インターンシップ演習	0
	工学研究科	JD プログラム	1
	自然科学技術研究科	JD プログラム	1
		水環境リーダー育成プログラム	0
	連合農学研究科	JD プログラム	1
	連合獣医学研究科	海外派遣プログラム	0
若手研究者育成プログラム		0	
その他	トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム	5	
	バロー・V ドラッグ	1	
	4 大学連携事業研修プログラム	0	
	日中友好中部六県大学生訪中団	0	
	研究留学	7	
	学会	3	
	調査	9	
	個人留学	3	
インターンシップ	1		
合計		118	

\* 令和 4 年度は参加希望者が他大学も含めた最少催行人数に達せず実施されなかった。



表2 本学学生の海外渡航者数（部局別・延べ数）

部局	学部生数	大学院生数	全学部生数	全大学院生数
教育学部 / 教育学研究科（専門職学位・修士）	15	0	1001（-17）	64（-91）
地域科学部 / 地域科学研究科（修士）	17	0	458（+5）	35（+3）
医学部（医学科・看護学科）/ 医学系研究科（修士・博士）	8	0	975（-12）	234（+4）
工学部 / 工学研究科（博士）	19	4	2250（+1）	110（-9）
応用生物科学部	26	—	896（-5）	—
社会システム経営学環	0	—	64（+32）	—
自然科学技術研究科（修士）	—	22	—	926（+28）
共同獣医学科（博士）	—	0	—	21（+4）
連合農学研究科（博士）	—	6	—	105（+7）
連合獣医学研究科（博士）	—	0	—	10（-17）
連合創薬医療情報研究科（博士）	—	0	—	18（-2）

全学部生数・全大学院生数は2022年岐阜大学概要の数値を使用。（ ）内は前年度からの増減を示す



### トビタテ！留学JAPANとは？

文部科学省は、意欲と能力のある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一步を踏み出す気運を醸成することを目的として、平成25年10月より留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」を開始しました。本学の学生も数多く、この制度を利用し、世界に旅立っています。

本学の採用実績は次の通りです。

平成26年度	2014年9月 - 2015年3月	メルボルン大学	オーストラリア
	2014年12月 - 2015年9月	メルボルン大学	オーストラリア
	2014年9月 - 2016年9月	ランガラカレッジ	カナダ
平成27年度	2015年9月 - 2016年3月	ベルリン自由大学	ドイツ
平成28年度	2016年10月 - 2017年9月	ワゲニンゲン大学、ルーヴェンカトリック大学	オランダ、ベルギー
	2016年10月 - 2017年9月	テュレーン大学	アメリカ
	2016年10月 - 2017年9月	国立衛生研究所	アメリカ
	2016年10月 - 2017年3月	シンガポール国立大学	シンガポール
平成29年度	2017年9月 - 2018年8月	アルバータ大学	カナダ
	2017年11月 - 2018年9月	デュポン小児病院	アメリカ
平成30年度	2018年4月 - 2019年6月	シドニー大学	オーストラリア
	2018年9月 - 2018年10月	ミネソタ大学ツインシティー校	アメリカ
	2018年9月 - 2019年6月	イェナプラン教育協会、ヨーク大学附属語学学校、Eric Hamber Secondary School	オランダ、カナダ
	2018年9月 - 2019年9月	スイス連邦工科大学ローザンヌ校	スイス
	2018年10月 - 2019年9月	国立衛生研究所	アメリカ
令和元年度	2019年9月 - 2020年3月	スウェーデン王立工科大学	スウェーデン
	2022年1月 - 2022年12月	農場フィールドワーク、ヘルシンキ大学等	フィンランド、フランス、イギリス、スペイン
	2022年2月 - 2023年2月	ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア
	2022年4月 - 2023年3月	ザンビア大学	ザンビア
	2022年1月 - 2023年1月	アイオワ州立大学	アメリカ
	新型コロナウイルス感染症の影響により採用辞退	国立衛生研究所	アメリカ
	新型コロナウイルス感染症の影響により採用辞退	国立神経学脳神経外科学病院	イギリス
令和2年度	2022年3月 - 2023年3月	スイス連邦工科大学ローザンヌ校	スイス
	新型コロナウイルス感染症の影響により採用辞退	バイトダンス	シンガポール



## 本学教職員派遣実績（令和4年度海外渡航者数調べ（延べ人数））

部局名	出張	研修	合計
教育学部・教育学研究科	15 (3)	0 (0)	15 (3)
地域科学部・地域科学研究科	8 (6)	0 (0)	8 (6)
医学部・医学系研究科	9 (1)	1 (0)	10 (1)
医学部附属病院	14 (0)	2 (0)	16 (0)
工学部・工学研究科	64 (27)	1 (0)	65 (27)
応用生物科学部	47 (17)	1 (0)	48 (17)
社会システム経営学環	0 (0)	0 (0)	0 (0)
自然科学技術研究科	0 (0)	0 (0)	0 (0)
共同獣医学研究科	0 (0)	0 (0)	0 (0)
連合農学研究科	2 (2)	0 (0)	2 (2)
連合獣医学研究科	0 (0)	0 (0)	0 (0)
連合創薬医療情報研究科	5 (5)	0 (0)	5 (5)
学術研究・産学官連携統括本部	0 (0)	0 (0)	0 (0)
高等研究院	10 (1)	0 (0)	10 (1)
糖鎖生命コア研究所	4 (2)	0 (0)	4 (2)
流域圏科学研究センター	7 (2)	0 (0)	7 (2)
地域協学センター	1 (0)	0 (0)	1 (0)
教育推進・学生支援機構	1 (0)	0 (0)	1 (0)
保健管理センター	2 (2)	0 (0)	2 (2)
岐阜大学運営局	0 (0)	0 (0)	0 (0)
グローバル推進機構*	35 (35)	0 (0)	35 (35)
合計	224 (103)	5 (0)	229 (103)

うち（ ）内は協定大学

\* 令和4年度は、大学間協定大学であるアルバータ大学(カナダ)のオンライン研修を事務職員向けに開催し10名(岐阜大学から3名、名古屋大学から7名)が参加した。

## 外国人研究者・来訪者受入実績（令和4年度外国人研究者・来訪者受入数調べ（延べ人数））

部局名	研究者	来訪者	国（研究者）	国（来訪者）	合計
教育学部・教育学研究科	0 (0)	0 (0)			0 (0)
地域科学部・地域科学研究科	0 (0)	0 (0)			0 (0)
医学部・医学系研究科	0 (0)	1 (0)		イラク	1 (0)
医学部附属病院	1 (0)	0 (0)	タイ		1 (0)
工学部・工学研究科	3 (3)	0 (0)	リトアニア		3 (3)
応用生物科学部	0 (0)	0 (0)			0 (0)
社会システム経営学環	0 (0)	0 (0)			0 (0)
自然科学技術研究科	0 (0)	0 (0)			0 (0)
共同獣医学研究科	0 (0)	0 (0)			0 (0)
連合農学研究科	2 (2)	0 (0)	インドネシア		2 (2)
連合獣医学研究科	0 (0)	0 (0)			0 (0)
連合創薬医療情報研究科	4 (4)	0 (0)	インドネシア		4 (4)
学術研究・産学官連携統括本部	0 (0)	0 (0)			0 (0)
高等研究院	0 (0)	0 (0)			0 (0)
糖鎖生命コア研究所	4 (1)	0 (0)	アメリカ、フランス		4 (1)
流域圏科学研究センター	1 (0)	0 (0)	アイルランド		1 (0)
地域協学センター	0 (0)	0 (0)			0 (0)
教育推進・学生支援機構	0 (0)	0 (0)			0 (0)
保健管理センター	0 (0)	0 (0)			0 (0)
岐阜大学運営局	0 (0)	0 (0)			0 (0)
グローバル推進機構	10 (10)	5 (0)	インド	リトアニア、アメリカ、インドネシア	15 (10)
合計	25 (20)	6 (0)			31 (20)

うち（ ）内は大学間・部局間学術交流協定大学

## 国際協力活動（JICA 事業）

本学の理念である「学び、究め、貢献する」に基づき、グローバルな視点においても社会貢献、また有為な人材育成を行うため、積極的な国際協力活動を行っている。これまで本学が行ってきた国際協力機構（JICA）による専門家派遣、外国人研修員受入れ及び学位課程就学者受入れ等について、今後も引き続き協力をを行うと同時に、海外の大学及び関係機関等と国際的なネットワークを構築し、教育研究の国際化を図ることで、世界に開かれた大学を目指す。

### 本年度に実施された国際開発協力一覧（JICA 事業）

種別	部局	国名	プロジェクト名	人数	協力期間
学位課程就学者受入	工学研究科	ケニア	道路アセットマネジメントコース	1名	2020.4.1-2023.3.31
		ザンビア	道路アセットマネジメントコース	1名	2021.4.1-2022.5.18
		東ティモール	科学技術イノベーション人材育成	1名	2020.10.1-2023.9.30
	自然科学技術研究科	東ティモール	科学技術イノベーション人材育成	1名	2022.4.1-2024.3.31
		ガーナ	ABE イニシアティブ	1名	2022.10.1-2024.9.30
		ルワンダ	Agri-Net	1名	2022.10.1-2022.12.31
受託研修員受入	工学部	東ティモール	東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ 2 情報工学	2名	2022.6.13-2022.7.25
			東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ 2 電気・電子工学	4名	2022.10.7-2022.11.22
			東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ 2 機械工学	3名	2022.10.7-2022.11.22
専門家派遣	工学部	東ティモール	東ティモール・東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ 2・短期派遣専門家 機械工学	1名	2022.9.6-2022.9.23

### JICA 東ティモール事業

『東ティモールでは1999年8月の独立を問う直接投票後の混乱により、多くの住民が避難を余儀なくされ、教育機関を含む物的インフラの7割以上が破壊・使用不可能となるなど甚大な被害を被った。東ティモール暫定行政統治機構（UNTAET/ETTA）は2000年11月に東ティモール大学を開校。国造りを担うべき技術系人材の育成の観点から、インドネシア時代の旧東ティモール・ポリテクニクを母体として工学部に電気/電子工学科、機械工学科、土木工学科を設置したが、東ティモールでは高等技術教育体制の整備・運営に係る経験・知識が不足しており、日本に支援を要請してきた。』

日本としては、東ティモールの支援要請に応え、2001年より東ティモール大学工学部各学科のカリキュラムの策定、緊急無償資金協力による施設復旧・機材供与、電気・電子工学科に対して実習指導の専門家派遣を行ってきたところである。』<sup>1)</sup>

本学は2003年から JICA 東ティモール事業「JICA 東ティモール大学工学部支援プロジェクト」、さらに2010年からは第2フェーズである「東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクト」<sup>2)</sup>の協力機関として、同国を支援している。

- 1) 東ティモール大学工学部支援プロジェクト：JICA HP 参照  
(<http://www.jica.go.jp/project/easttimor/0601585/01/index.html>)
- 2) 東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクト：JICA HP 参照  
(<http://www.jica.go.jp/project/easttimor/002/outline/index.html>)



## 短期研修プログラム

### 【サマースクール（夏期短期語学研修：派遣）】

サマースクールは、その国の言語や文化を集中的に勉強するプログラムであり、短期間海外で生活することで国際感覚を高め、言語力を向上させ、今後の国際交流・海外留学等への契機となることを目的に実施している。令和4年度については、令和元年度以来に、協定大学であるグリフィス大学（オーストラリア）およびアルバータ大学（カナダ）を訪問し、留学プログラムを開催した。

大学名	グリフィス大学（オーストラリア）
プログラム名	Direct Entry Program（DEP）
プログラム実施期間	8月8日～9月2日
内容	英語研修
参加人数	31名

大学名	アルバータ大学（カナダ）
プログラム名	Communication Skills for Global Citizenship（CSGC）
プログラム実施期間	8月8日～8月26日
内容	英語研修
参加人数	6名

### 【サマースクール（夏期短期語学研修：受入）】

サマースクール（受入）を令和3年度に引き続きオンラインで開講する予定で協定大学に募集をかけたが、参加希望者が1名であったため、令和4年度の開催を見送った。

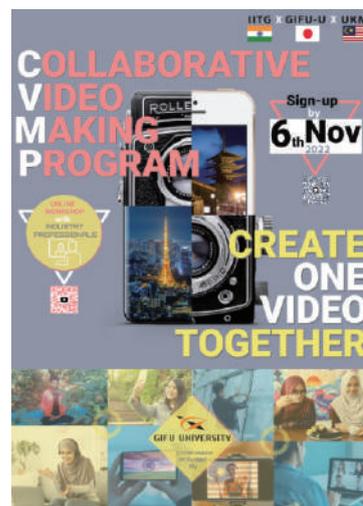
## 【Collaborative Video Making Program】

ジョイント・ディグリープログラムの相手大学であるインド工科大学グワハティ校、マレーシア国民大学及び本大学の3大学の学生が参加するオンライン交流事業 Collaborative Video Making Program (CVMP) を実施した。CVMP は令和2年度から毎年開催しており、令和4年度で3回目の開催となる。

このプログラムでは、3大学の学生が4グループに分かれ、“Thinking about SDGs” というテーマのもと、動画作品の共同制作を行った。

そして Final Competition を、2023年3月10日に Zoom Webinar で開催した。学生が制作した動画作品の発表を行い、特別審査員が講評を行った。最後には、特別審査員による採点及び視聴者投票が行われ、グループ4の作品「Trash Potential」が最優秀作品に決定した。

また、本プログラムで制作された動画作品は、GU-GLOCAL Channel から視聴できる。



対象大学	インド工科大学グワハティ校 (IITG)、マレーシア国民大学 (UKM)
実施期間	12月1日～2023年3月10日
参加人数	14名：岐阜大学9名、IITG4名、UKM1名

[GU-GLOCAL Channel]

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLrNWL5oYxiK9aHppLz9nEMlRcTuARbk3c>

[CVMP Web サイト]

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/videomaking/>

## 【Winter School (受入)】

ジョイント・ディグリープログラム (JDP) の相手大学であるインド工科大学グワハティ校 (IITG)、マレーシア国民大学 (UKM) の学生を本学にて受け入れる、ウィンタースクールを実施した。COVID-19等の影響を受けて中断していたが、3年ぶりとなる第6回目を12月12日(月)～26日(月)にかけて実施した。IITG から6名、UKM から2名の学生が来学した。

本年度は「土を通して見る岐阜」というテーマを設定し、岐阜や日本の焼き物産業にスポットを当て、多治見市での作陶体験、愛知県、神奈川県、東京での企業見学、企業理解、地域理解の特別講義、そして日本語・日本文化体験を受けた。最終日の12月26日には本プログラムとおして学んだことを発表する最終報告会を執り行い、ポスタープレゼンテーションにて発表を行った。



対象大学	インド工科大学グワハティ校 (IITG)、マレーシア国民大学 (UKM)
実施期間	12月12日～12月26日
参加人数	8名：IITG6名、UKM2名



## 【Spring School Program (派遣)】

全学を対象とした短期派遣プログラムであるスプリングスクールを実施した。本プログラムはジョイント・ディグリープログラム (JDP) の相手大学であるインド工科大学グワハティ校 (IITG) へ2週間程滞在するプログラムである。COVID-19等の影響を受けて中断していたスプリングスクールが4年ぶりに再開され、2023年3月3日(金)から2023年3月14日(火)にかけて第2回スプリングスクールが開催され、本学学生10名が参加した。

岐阜大学と共同開催の日印二国間シンポジウム2023 (IJBS-2023) 会場での開校式から始まり、国立公園見学や民俗博物館、ブータン式寺院などの見学、現地企業(種苗農家および製菓工場)や茶畑見学を行った。IITG キャンパス内では、デザイン学科での竹資源の活用方法のワークショップや、JDP 関連学科を中心としたラボツアーが開催された。また、インド三大祭りの一つであるホーリー祭(カラーフェスティバル)へも参加した。最終日には、英語でのポスタープレゼンテーションを見事にこなし、修了証書を受け取った。



対象大学	インド工科大学グワハティ校 (IITG)
実施期間	2023年3月3日~2023年3月14日
参加人数	10名

[Spring School Program Web サイト]

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/springschool/>

### 3. 国際交流活動

#### 国際協働教育・地域国際化関連

5月～  
2023年2月 グローカル化のためのSDGs勉強会

オンライン

地域のグローバル化の推進を目的に、本学が有する人的ネットワークを活用した「グローバル化のためのSDGs勉強会」がウェビナー形式で計9回実施され、延べ271名が参加した。(勉強会は脱炭素社会の実現に向けた、機械・エネルギー分野、食品科学技術分野、バイオマス・農業分野の取り組みを中心に、様々なテーマで実施された。)  
参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/region/sdgs/session/>



7月7日 JD学生(岐阜大学・IITG・UKM)と本学学長との懇談会

対面

インド工科大学グワハティ校(IITG)およびマレーシア国民大学(UKM)と協働し開設した、ジョイント・ディグリープログラム(JDP)の参加学生が、吉田和弘学長と懇談会を開催した。7月時点で受け入れている9名、7月中旬よりIITG渡航予定の1名の学生が懇談会に参加した。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000597.html>



9月30日 日印交流プラットフォーム構築プログラム(JIEPP)  
第4回日印交流セミナー

オンライン

東京大学発の日印交流発展のための事業の一環として、セミナー「日印間のジョイント・ディグリー：現状と展望」が開催された。本学がインド工科大学グワハティ校と実施しているジョイント・ディグリー制度について、植松 美彦グローバル推進機構長と久米 徹二教授より講演が行われた。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000610.html>



11月30日 岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2022  
12月1日 (東海国立大学機構 JDP シンポジウム)

ハイブリッド

「共創の場としてのジョイント・ディグリー～教育研究の国際化と地方創生～」と題し、第4回目となる国際シンポジウムを、オンライン(ZOOM)及び一部対面で開催した。東海国立大学機構(THERS)JDPシンポジウムでは、「共創の場としてのジョイント・ディグリー～教育研究の国際化と地方創生～」、学術セッションでは、「持続可能な地域開発：SDGsとその先に向けて」、産官学金連携セッションの、第1セッションは「SDGs対応の紹介」、第2セッションは「インド事業と脱炭素」をテーマに開催した。THERS JDPシンポジウムが84名、学術セッションが43名、産官学金連携セッションが84名と延べ211名が参加し、大変有意義なシンポジウムとなった。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/region/information/000640.html>





12月12日～  
12月26日

## Winter School Program 2022

対面

COVID-19の影響を受けて中断していた短期受入プログラムのウィンタースクールを3年ぶりに開催した。第6回目となる本年は、12月12日（月）～26日（月）にかけて、本学とジョイント・ディグリープログラム（JDP）を設置しているインド工科大学グワハティ校から6名、マレーシア国民大学から2名の学生が来学した。「土を通してみる岐阜」というテーマより学んだことを、最終日の12月26日に最終報告会で発表した。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000643.html>



12月22日

## インド工科大学グワハティ校（IITG）教員学長表敬

対面

12月21日（水）から12月26日（月）までにかけて、本学に来学していたインド工科大学グワハティ校（IITG）のゴード教授、ミトラ准教授、カナガラージ教授、ダス教授の4名の教員が、吉田和弘学長及び部局長を表敬訪問した。さらには、本国際修了証発行型教育に関係する本学の教員とのミーティングが行われ、食品流通、減災・防災、サステナブル技術などの分野において、意見交換をした。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000647.html>



2023年1月23日 日印大学フォーラム

対面

2023年1月23日、東京で開催された日印大学等フォーラムにて、吉田和弘学長が日印間の大学間交流に関する講演を行った。本フォーラムは科学技術振興財団（JST）が主催したもので、第1回にあたる今回は「日印間の大学・研究機関間交流の強化と今後の課題解決：若手イノベーション人材の育成と交流」をテーマに開催した。インドの10大学、日本の22大学及び関係機関の学長や代表が対面形式でフォーラムを開催し、今後の両国の連携強化に向けた議論を行った。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000652.html>

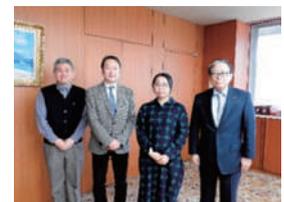


2023年1月24日 ヴィータウタス・マグヌス大学（VMU）教員学長表敬

対面

ヴィータウタス・マグヌス大学から高木 伽耶子 講師が本学を訪問した。高木講師は、吉田和弘学長、神原信志副学長（国際・情報・評価（副）担当）及び工学部毛利哲也教授と、リトアニアと本学との交流について意見交換を行った。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/information/000651.html>



2023年1月25日 インド工科大学ハイデラバード校（IITH）マルチ学長との意見交換会

ハイブリッド

東京で開催されたインド工科大学ハイデラバード校（IITH）B. S. マルティ学長との意見交換会に本学グローバル推進機構 植松美彦機構長らが出席し、本学のインドの大学との交流及び本学とIITHとの今後の連携について意見交換を行った。今回の意見交換会は、独立行政法人国際協力機構（JICA）が主催したものである。本学を含む日本の6大学及び2政府機関、3企業が対面参加し、対面とオンラインのハイブリッドで実施した。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000653.html>



## 2023年3月3日 ～3月14日 Spring School Program 2022-2023

対面

COVID-19の影響を受けて中断していた短期派遣プログラムのスプリングスクールを4年ぶりに開催した。第2回目となる本年は、2023年3月3日(金)～14日(火)にかけて、本学とジョイント・ディグリープログラム(JDP)を設置しているインド工科大学グワハティ校(IITG)へ、10名の本学学生が参加した。インドの文化体験やIITGを知ることができるプログラムとなっており、最終日にはポスターセッションにて、学んだことを発表した。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000679.html>

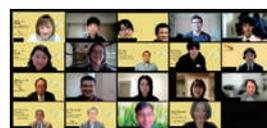


## 2023年3月10日 Collaborative Video Making Program Final Competition

オンライン

本 Competition において、参加学生が共同で制作した動画作品の審査会を開催した。ウェビナー形式で開催された審査会では、延べ45名が視聴し、3大学及び企業からの来賓による採点と視聴者投票が行われた。投票の結果、グループ4の作品「Trash Potential」が最優秀作品に選出された。4作品はグローバル推進機構のYouTubeチャンネルで留学希望者向けの広報動画として公開された。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000667.html>



## 2023年3月17日 ヴィータウタス・マグヌス大学 (VMU)、カウナス工科大 ～3月20日 学 (KTU) (リトアニア) を訪問

対面

神原信志副学長(国際・情報・評価(副)担当)ほか本学教員6名がヴィータウタス・マグヌス大学(VMU)の農業アカデミー(VMU AA)と本部及びアジア研究センター、カウナス工科大学(KTU)の工学部と国際部を訪問した。特にVMU AAとは今後交流を深め、3～4年後のジョイント・ディグリープログラム(JDP)の構築を目指したミーティングを行った。



## 留学推進・国際企画関連

### 4月25日 4月28日 2022年夏期 ESL・EST 説明会 5月9日

対面

2022年度サマースクール(ESL/EST)説明会を開催した。新型コロナウイルス感染症のため、昨年度はオンラインによるサマースクールを実施したが、今年度は、2019年度以来の現地に渡航して参加できるプログラムを実施した。3回の説明会では、計150名を超える学生が参加した。本学は今年度、サマースクール(ESL/EST)として、グリフィス大学ESLプログラム(オーストラリア)、アルバータ大学ESLプログラム(カナダ)、およびアルバータ大学ESTプログラム(カナダ)の3プログラムを提供した。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/studyabroad/information/000582.html>





6月22日  
6月24日

### 外国人学生との交流会

対面

本学日本人学生13名と留学生11名（中国、インド、インドネシア、ベトナム、ガーナ、ケニア、フランス）を含む延べ25名が参加した。これまで新型コロナウイルス感染拡大に伴いオンラインでの交流企画が続く中、今回は感染対策に留意しながら対面での交流会を開催することができた。交流会では、日本語・日本文化教育センターの和室に岐阜市の大判地図を広げ、おすすめの観光地やレストラン、ショッピングモール、公共施設などの情報を書き込みながら、自分たちの岐阜市マップを作り上げた。



参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/studyabroad/information/000586.html>

6月29日

### 海外渡航危機管理オリエンテーション

対面

本学・全学共通教育棟102教室にて「海外渡航時の危機管理オリエンテーション～いま、海外渡航を考えている皆さんへ～」を開催した。4名の講師からの説明があり、当日は、計80名を超える学生や教職員が参加し、来る海外渡航に備え、真剣に耳を傾けていた。



参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/studyabroad/information/000590.html>

7月27日

### 夏期 ESL プログラム事前交流会

対面

本学・全学共通教育棟コモンズ1A教室にて「2022年度サマースクール（ESLプログラム）事前交流会」を開催した。当イベントは、新型コロナウイルス感染症のため、3年ぶりに開催されることになる「オーストラリア・グリフィス大学 ESL プログラム（2022/8/6～9/4）」の参加者31名、「カナダ・アルバータ大学 ESL プログラム（2022/8/7～8/28）」の参加者6名が事前に親睦を深めることを目的に開催した。



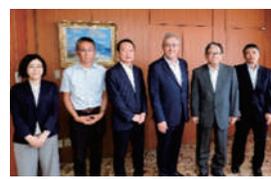
参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/studyabroad/information/000600.html>

8月24日

### 名古屋米国総領事館学長表敬訪問

対面

在名古屋米国領事館 マシュー・センサー首席領事が本学を訪問した。センサー首席領事は、吉田和弘学長、神原信志副学長（国際・情報・評価（副）担当）及び小山博之グローバル推進機構副機構長と、米国と本学との交流について意見交換を行った。本学は、米国のサンディエゴ州立大学、ノーザンケンタッキー大学、ユタ州立大学及び南フロリダ大学と大学間学術交流協定を締結し、学生・研究者交流を行っている。今後も活発な学生交流及び研究者交流が展開されることが期待される。



参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/information/000607.html>

## 10月7日 (国際月間) 旅行作家・蔵前 仁一氏 講演会

ハイブリッド

国際月間の一環として、蔵前 仁一氏講演会「僕は旅人」を開催した。本イベントでは、「バックパッカーの教祖」とも言われる蔵前 仁一氏より、インドをはじめ様々な国を旅するバックパッカーとなり体験したことについて、1時間にわたって講演があった。会場で聴講した25名とリアルタイム配信視聴者の51名に対して「目的があって旅行するんじゃない、勉強になるから海外に行くわけじゃない。知らないから行くのです。行くと面白いんですよ。」とのメッセージを送った。参加者からは、「続きが見たい」というリクエストもあり、今後、続編の作成とそのオンライン配信を予定している。



参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/information/000622.html>

10月19日  
10月21日 (国際月間) 協定大学の学生とのオンライン交流会

オンライン

国際月間の一環として「協定大学の学生とのオンライン交流会」を開催した。相手大学は、ヴィータウタス・マグヌス大学（リトアニア）、リール大学（フランス）の2大学で、本学の教員がファシリテーターとなり計2回開催した。リール大学との交流会は15名が、ヴィータウタス・マグヌス大学との交流会は19名が参加した。交流会では、最初に教員から相手国の説明などがあり、その後グループに分かれ、日本語や英語で話しながら、学生生活や食文化など、様々な話題で交流を楽しんだ。



参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/information/000626.html>

## 11月16日 秋の海外留学フェア

対面

グローバル推進機構主催『海外留学フェア2022秋～広げよう留学の輪～』を開催した。本フェアは、プログラム毎に留学経験者が中心となって運営するブースを参加者が訪問し、学生同士が直接交流できるスタイルで実施した。第1部では、グローバル推進機構留学支援室留学支援係から機構主催の留学プログラムや奨学金制度に関する説明があり、続いて、各留学プログラムの代表者による留学体験談の報告が行われた。第2部では、各ブースで留学経験者によるプログラム説明や体験談をお話いただき、参加者は各ブースにて話を聞いた。



参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/studyabroad/information/000635.html>

## 11月29日 上海外国語大学賢達学院において留学説明会を開催

ハイブリッド

本学上海事務所職員による岐阜大学留学説明会を上海外国語大学賢達学院において開催した。日本語学科の学生が、対面にて約50名、オンラインにて約100名参加した。参加学生からは、本学が東海国立大学機構に参画していることから、特に名古屋大学との関係について質問があった。今後さらに本学への関心が高まり、留学が促進されることを期待する。





## 留学生就職促進プログラム関連

5月～7月・  
11月～2023年2月 キャリア日本語演習

対面

日本語・日本文化教育センターでは、日本で働きたい留学生のために、「キャリア日本語」の授業を開講した。中級レベル（JLPT N3）以上で、日本で働きたい留学生を対象に募集を行った。授業内容は、キャリアプランニング、企業分析、エントリーシート・履歴書の書き方、グループディスカッション、面接の練習等で構成されている。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/isepp/information/000624.html>



10月26日 企業交流プログラム（岐阜地区ワークショップ）

対面

岐阜大学全学共通教育講義棟において、第6回目である2022年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催した。2部構成で行われ、第一部では岐阜県外国人活躍・共生社会推進課 課長補佐 水野 智裕氏と、一般社団法人グローバル愛知日本語教育担当 橋詰 翠氏にご講演をいただいた。第二部では、留学生が参加企業各社のブースを訪ねて面談を行った。本年度は企業から10社17名、留学生17名の参加があった。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/isepp/information/000632.html>



## 日本語・日本文化教育センター関連

7月1日

郡上市連携事業①  
郡上市立相生小学校訪問・郡上文化体験

対面

郡上市立相生小学校児童との交流は、2021年度のオンラインサマースクールにおける交流体験に続き、2回目となる。2022年度は日本語・日本文化教育センター（以下日文センター）所属の日本語・日本文化研修留学生（以下日研生）3名と社会文化プログラム交換留学生（以下社会文化生）1名が同校を訪問し、対面での交流会が実施された。相生小学校5・6年生が参加し、お互いの発表を聞き、質問するなど、活発に交流が行われた。午後は郡上八幡国際友好協会（GIFA）による郡上文化体験があり、留学生は郡上八幡城を訪問したり、浴衣を着用して郡上踊り講習会に参加したり、様々な体験を楽しむことができた。



7月27日

留学生と日本人学生のための能楽（能・狂言）  
ワークショップ

ハイブリッド

日文センターでは、2005年度からプロの能楽師による能楽（能・狂言）ワークショップを行っている。昨年度はオンラインで、今年度はハイブリッド（対面とオンライン併用）で開催し、約40名の参加があった。講師として観世流シテ方の味方團先生と田茂井廣道先生（以上能の講師）、大蔵流狂言方の茂山忠三郎先生と小齊平真路先生（以上狂言の講師）の4名を日文センター和室にお迎えした。能楽・狂言の実演や、歴史や音楽の講義、能装束の着付けといった盛りだくさんの内容に加え、講師の先生方の工夫により、対面・オンラインの両参加者が楽しめるものとなった。

参照：<https://www.gifu-u.ac.jp/news/news/2022/08/entry04-11769.html>



8月7日

日本語・日本文化研修留学生（日研生）修了論文発表会

ハイブリッド

21期日研生3名による修了論文発表会を開催した。21期日研生は、新型コロナウイルスの影響により、留学期間が約半分になってしまったが、その苦境にもかかわらずそれぞれが力のこもった修了論文を作成した。発表会をハイブリッドで行うことにより、かつて本センターで学んだ日研生コース修了生や、日研生の所属校の教員・学生の参加が可能となった。各学生の研究テーマは以下のとおりである。

- ・「口」にまつわることわざ—日本とタイのことわざの比較から見えてきたこと—
- ・岐阜地域のモーニングに関する一考察
- ・カラオケと人間関係 —だれと行くか、ひとりで行くか—

参照：<https://www.gifu-u.ac.jp/news/news/2022/08/entry12-11784.html>





12月14日

雅楽カルチャー体験コンサート（日本文化ワークショップ）

対面

日文センター和室にて、雅楽を楽しむ日本文化ワークショップを開催した。雅楽の普及活動を行っているオフィス菊理に依頼し、講師2名（近藤泰史先生、同智佳子先生）を迎えて行われた対面でのワークショップでは、雅楽の歴史の講義や演奏の鑑賞だけでなく、楽器に触れたり、平安時代の衣装を身にまもったりする体験もあった。学生たちは珍しい体験に、写真撮影の手が止まらない様子だった。人数の制限はあったものの、ウィンタースクール参加学生や日研生、社会文化生、日本語研修コース履修生等、約30名が参加し、日本の美しい伝統文化を楽しんだ。

参照：<https://www.gifu-u.ac.jp/news/news/2022/12/entry26-12070.html>



2023年1月17日 郡上市連携事業②

2023年1月21日 観光立市郡上異文化コミュニケーション研修

対面

郡上市と本センター（主として日研生）との連携は様々な場面で展開されているが、本事業は、郡上市人事課が実施する郡上市職員特別研修（観光立市郡上異文化コミュニケーション研修）の一環として実施されたものである。1月17日は岐阜大学にて事前研修（郡上市職員と留学生の顔合せ、市職員に対する特別講義等）を行い、21日は現地研修として、事前研修に参加した日研生5名に加え、社会文化生2名、交換留学生2名が参加し、現地研修（市職員との町内散策、文化体験等）を行った。



以上、すべての詳細は『岐阜大学日本語・日本文化教育センター紀要2022』を参照されたい。

## 学内の国際化の取り組み

### \*海外留学フェア2022秋（11月16日）

新型コロナウイルス感染症の影響により、春の海外留学フェアの開催は中止となった。秋については、令和元年度以来に、「海外留学フェア秋」としてイベントを実施した。留学経験者と留学に興味のある学生が直接交流できるような形式とし、学生間の実質的なネットワーク形成を可能とした。本イベントには、学生・教職員含め27名が参加した。

### \*海外留学フェア2022秋プログラム

開会・制度説明セッション	
開会挨拶	グローバル推進機構長 植松 美彦
留学に関する説明	留学支援係、留学経験者
ブース訪問・学生交流セッション	
ブース名	参加者が興味のあるブースを訪問し、留学経験者と交流
グリフィス大学 ESL プログラム	
アルバータ大学 ESL プログラム	
アルバータ大学 EST プログラム	
スプリングプログラム / トビタテ！留学 JAPAN	
交換留学	

### \*若手研究者支援（海外研修プログラム）

グローバル推進機構では、協働教育担当者の充実を図るために、「岐阜大学若手・中堅研究者海外研修プログラム」を実施し、海外研修を行う者への支援を行っている。これは、様々な制約から海外での研究経験を積む機会が乏しかった若手・中堅の教員を対象としたもので、主に欧米の大学等において海外研究経験を積むことを支援するものである。令和2年度より新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が困難となっている状況に鑑み、特例措置として海外研究機関との共同研究を促進するための支援として実施していたが、令和4年度より、海外研修を行う者へ海外渡航への支援を再開した。

### 令和4年度採択者

所属部局	氏名（職名）	共同研究機関（国名）	助成額
工学部	鈴木 優 （准教授）	インスブルック大学コンピュータサイエンス学部 （オーストリア）	500,000円
日本語・日本文化教育センター	吉成 祐子 （准教授）	エトヴェシュ・ロラード大学極東研究所日学科 （ハンガリー）	467,530円
流域圏科学研究センター	小山 真紀 （准教授）	ケンブリッジ大学 （イギリス）	500,000円



## \* 海外協定大学連携強化交流事業

グローバル推進機構では、コロナ禍で交流が困難であった海外協定大学との連携強化を図るため、令和4年度より「海外協定大学連携強化交流事業（ポストコロナ対応）」を実施し、各部局等における海外協定大学等との交流活動の再開を支援した。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が困難となり、交流が滞っていた海外協定大学への訪問及び招へいを実施して、協定大学との人的交流を全学的に活性化するための措置である。

### 令和4年度採択者

所属部局	氏名（職名）	共同研究機関（国名）	派遣／招へい	助成額
教育学部	巽 徹 （教授）	ノーザンケンタッキー大学 （米国）	派遣	300,000円
応用生物科学部	大場 伸也 （教授）	バングラデシュ農業大学 （バングラデシュ）	派遣	245,000円*
		シーナカリンウイロート大学 教育学部 （タイ）	派遣	
応用生物科学部	乃田 啓吾 （准教授）	ラオス国立大学 林学部 （ラオス）	派遣	226,500円
医学教育開発研究センター	今福 輪太郎 （併任講師）	南フロリダ大学 （米国）	派遣	226,500円
地域科学部	神谷 宗明 （准教授）	サンディエゴ州立大学 （米国）	派遣	266,000円
工学部	木下 幸治 （准教授）	グリフィス大学 （オーストラリア）	派遣	266,000円
工学部	毛利 哲也 （教授）	ヴィータウタス・マグヌス大学 （リトアニア）	招へい	47,000円
工学部	新田 高洋 （教授）	デダンキマティ工科大学 工学部 （ケニア）	派遣	266,000円
連合農学研究科	平松 研 （教授）	マリアノ・マルコス州立大学 （フィリピン） モンクット王トンブリ工科大学 （タイ）	派遣	266,000円
連合農学研究科	中野 浩平 （教授）			266,000円
連合農学研究科	山田 邦夫 （教授）			266,000円
連合農学研究科	光永 徹 （教授）			226,500円
連合農学研究科	中野 浩平 （教授）	ランボン大学 （インドネシア）	招へい	132,400円

\* 派遣に至らず、国際交流促進の助成とした

## \*国際月間（グローバル推進機構主催イベント）

時期（参加人数）	実施内容
10月1日-10月31日	<p>「学長からのメッセージの配信」</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、まだ渡日が叶わない外国人留学生および外国人研究者に向け、学長からのメッセージを配信した。メッセージは、激励の言葉とともに事前に留学生から寄せられた学長への質問に答える内容としており、岐阜大学の魅力や国際化への取り組みを動画にて配信した。</p> 
10月7日 (76名)	<p>「僕は旅人—旅行作家蔵前仁一氏講演会—」</p> <p>旅行作家の蔵前仁一氏の講演会を開催した。講演会では、蔵前氏より、海外を旅する魅力や、注意すべき点等、ご自身のエピソードを交えお話いただいた。アジア（特にインド）やアフリカ等、世界中をバックパッカー一つで旅して周った蔵前氏の話は大変興味深く、これから渡航する本学学生を含む参加者からは、積極的な質疑があった。</p> 
10月19日（ヴィータウタス・マグヌス大学） (19名) 10月21日（リール大学） (15名)	<p>「協定大学の学生とのオンライン交流会」</p> <p>本学学生と、協定大学であるヴィータウタス・マグヌス大学（リトアニア）、リール大学（フランス）の学生が、学生生活や食文化など、様々な話題を通じて交流を楽しんだ。</p>  <p>ヴィータウタス・マグヌス大学</p>  <p>リール大学</p>
10月26日 (留学生17名、 企業10社17名)	<p>「岐阜地区ワークショップ」</p> <p>愛岐留学生就職支援コンソーシアムに参画する岐阜県、岐阜県経営者協会、ジェトロ岐阜、岐阜大学の4機関が共催し、コロナ禍の中ではあったが、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で対面で開催した。ワークショップは2部構成で実施し、第1部では外国人材活用を多文化共生の視点から考える～高度外国人材の活躍に向けた東海圏における取り組みに関するセミナーと題し、岐阜県外国人活躍・共生社会推進課 課長補佐 水野 智裕氏と、一般社団法人 グローバル愛知日本語教育担当 橋詰 翠氏にご講演いただいた。続く第2部においては、留学生が参加企業各社のブースを訪ねて面談を行った。</p> 

## 大学の世界展開力強化事業

### 令和4年度大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」とは：

文部科学省が公募する本プログラムは、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力を強化するため、日本人学生の海外留学と外国人学生の受入れを行う国際教育連携の取組を5年間継続支援するものである。

本プログラムにおいて、本学はインド工科大学グワハティ校、岐阜・東海地域及び北東インド地域の産官学と連携した各種取り組みを通じて、高度人材育成および地域・国際社会の発展に貢献していくこととし、採択された。

#### \*プログラムのポイント

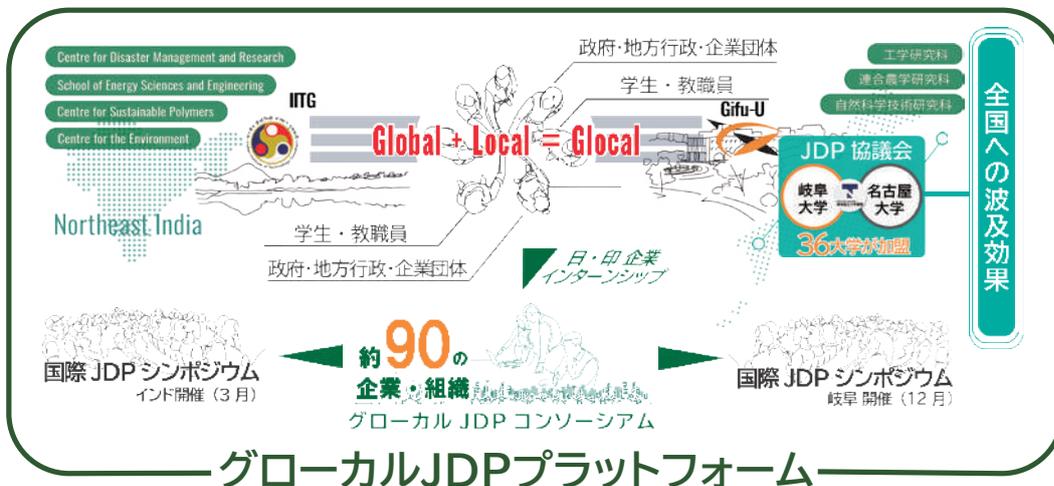
3専攻の国際連携専攻（JDP）を設置・運営する岐阜大学とインド工科大学グワハティ校を中心に、岐阜を中心とする東海地域や北東インド地域の産官学（JDP コンソーシアム）が協働して国際連携教育に貢献するグローバル JDP プラットフォームを形成する。それを活用することにより「食品・サプライチェーンエキスパート」、「減災・防災エキスパート」、「サステナブルエネルギーエキスパート」等の修了証発行型教育プログラムを構築し、グローバル高度人材を育成する。

#### \*主な取組

- ・地球規模課題の理解や国際的な共創体験ができる学部学生向けの短期留学や長期継続型オンライン交流プログラム、及び産学連携・国際共同研究等のリーダー育成に向けた大学院学生向けの修了証発行型プログラムを構築し、段階的・体系的なプログラムを提供
- ・国際展開する JDP コンソーシアム加盟企業におけるインターンシップの実施とアントレプレナー教育により、国際的に活躍できるグローバル高度人材を育成
- ・国際シンポジウムの実施により、JDP コンソーシアム加盟企業・組織の相互交流機会を創出し、両地域の課題を世界的な視点で解決するアイデアの共創
- ・大学の国際化促進フォーラムや全国大学 JDP 協議会を活用し、グローバル JDP プラットフォームを全国の大学へ展開

グローバルJDPプラットフォーム

日印で定期開催するシンポジウムを通じて、産官学金、連携大学が参加する場、「グローバルJDPプラットフォーム」を形成する。



[大学の世界展開力強化事業 Web サイト] <https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/jdp-platform/>



## 全国大学 JDP 協議会

### 全国大学 JDP 協議会とは：

本協議会は令和4年4月に設置され、ジョイント・ディグリープログラム（JDP）を開設、あるいは開設を予定している大学が、JDPの運用における課題の改善や情報共有、JDPの活用の方策並びに今後の展望についての検討、JDPに関する意見・要望等のとりまとめ及び文部科学省への提言、新規JDP立ち上げ校に対するアドバイスを目的として組織している。

### \*主な取組

10月25日、本学が会長大学を務める全国大学 JDP 協議会において、第1回総会をオンラインにて開催し、29大学1機関109名の出席があった。

総会では、文部科学省高等教育局参事官（国際担当）付 武田久仁子専門官から、「ジョイント・ディグリー101」と題して、ジョイント・ディグリープログラムの制度概要、開設状況、改正概要等についての講演が行われたほか、協議事項として、JDP運用にあたっての問題点及び文部科学省への要望事項、国際連携専攻に係る専任教員数、JDP修了生の進路状況調査について協議した。

なお、本協議会で取りまとめた「ジョイント・ディグリープログラムの運用に関する要望書」については、12月16日に植松美彦 全国大学ジョイント・ディグリープログラム協議会長（本学グローバル推進機構長）が松尾 清一 東海国立大学機構長とともに文部科学省を訪問し、池田 貴城 文部科学省高等教育局長に手交した。

本協議会は、今後も定期的に総会を開催し、JDPの成果やノウハウを共有しながら、より効果の高いJDPを全国に展開することを目指し、有意義な連携を図っていくこととしている。



[JDP 協議会 Web サイト]  
<https://jdp-council.jp/>





## 留学生就職促進プログラム

### 愛岐留学生就職支援コンソーシアムとは：

文部科学省「留学生就職促進プログラム」の事業目的に賛同した愛知および岐阜県下の大学、地方公共団体、経済団体および企業団体が連携し、留学生の日本での就職支援を行うために設立されました（図1参照）。留学生就職促進プログラムは2021年度で終了しましたが、コンソーシアムの枠組みを活用し、引き続き就職支援の各種プログラムを実施します。

### \* 参画大学：

名古屋大学・岐阜大学・名古屋工業大学・名城大学・南山大学・愛知県立大学

### \* コンソーシアムの目的：

留学生の就職支援のための教育プログラムの開催

### \* 開催内容：

「ビジネス日本語教育」「キャリア教育」「インターンシップ」

### 愛岐留学生就職支援コンソーシアム

○平成29年9月11日設立

代表幹事 名古屋大学

副代表幹事 岐阜大学

名古屋工業大学、名城大学、南山大学、愛知県立大学、

愛知県、岐阜県、JETRO名古屋、JETRO岐阜、

愛知県経営者協会、岐阜県経営者協会、中部経済同友会、

中部経済連合会、愛知県社会保険労務士会

図1

### \* 岐阜大学の取組

岐阜大学では、国内で就職を目指す留学生に次のプログラムを提供した。プログラムの一部は、本学が参画する「岐阜地域留学生交流推進協議会」の構成大学の留学生へも提供した。

プログラム名	開催時期	取組内容
キャリア日本語	5月-8月 10月-2023年3月	日本語資格用講座、キャリア日本語講座、キャリア日本語演習を日本語・日本文化教育センターにおいて実施
夏インターンシップに向けた準備	6月8日	日本で就職を目指す留学生へのキャリアガイダンス
就職活動支援講座	10月5日 11月9日 11月16日 12月14日	「業界・企業分析」、「応募書類の作成」、「各種面接への対策」の3講座を実施
学生企業展 業界研究セミナー	12月10日- 12月11日	約200社が出展し、「視野を広げたい」「企業の雰囲気を知りたい」「新たな出会いの場が欲しい」というニーズに応えた
岐阜地区ワークショップ 共催：岐阜県、岐阜県経営者協会、 ジェトロ岐阜	10月26日	第1部：「外国人材活用を多文化共生の視点から考える」セミナー、 第2部：企業と留学生による交流会
身だしなみセミナー	2023年1月31日	花王グループカスタマーマーケティング株式会社様のご協力により、日本風の身だしなみ講座を実施

開催件数：6件

## 岐阜地域留学生交流推進協議会

### 岐阜地域留学生交流推進協議会とは：

留学生交流推進会議は各都道府県46地域（2013年）に設置されている。岐阜県では平成2年2月に「岐阜地域留学生交流推進協議会」（以下「岐留協」）が置かれた。

岐留協は、岐阜県内における留学生の円滑な受入れの促進と交流活動の推進を目的とし、会員は、岐阜県内に所在する大学、地方公共団体、経済団体、国際交流関係団体等43機関からなる。会長は岐阜大学長が務め、本学が事務局を運営している。

### \* 岐阜地域留学生交流推進協議会総会を開催（7月6日）

7月6日にオンラインにて本学が事務局を務める岐阜地域留学生交流推進協議会（以下、岐留協）の総会を開催し、34機関が出席した。

総会では、岐留協会長の会長代理として神原信志副学長による開会挨拶の後、文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室留学交流支援係長 山田貴生 氏による「留学生政策をめぐる現状と取組」と題した講演が行われた。

続いて、議事へと進み、令和3年度事業報告及び決算、令和4年度事業計画及び予算、岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会の開催、岐留協への新規入会について審議し、承認された。

### \* 第21回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会を開催（11月26日）

11月26日、岐阜協立大学において、本学が事務局を務める「岐阜地域留学生交流推進協議会」が、「第21回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会」を開催した。（幹事校：岐阜協立大学）

本大会は、平成13年度より外国人留学生の日本語学習意欲の喚起及び日本語の表現能力の向上を目的として行っており、岐阜協立大学、朝日大学、中日本自動車短期大学、国際たくみアカデミー、中部学院大学、及び本学の留学生9名（6ヶ国）の本選出場者が約7分間の日本語のスピーチを行い、日頃の努力の成果を存分に発揮した。本学から出場した留学生は、「断捨離で生活を整理」と題したスピーチを行い、断捨離の有用性を語った。

なお、本弁論大会の実施にあたっては、公益財団法人岐阜県国際交流センターの協力を得て開催した。



## ユネスコスクール活動支援

本学は、平成23年度にユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）に加盟し、以来11年にわたり岐阜県・岐阜市の教育委員会や県下のユネスコ協会、その他関係機関と連携しながら、県下のユネスコスクール拡大に取り組んだ。岐阜県内のユネスコスクール認定学校数の増加など、本学のASPUnivNet加盟校の活動として一定の成果もみられたことから、本学は令和4年度にASPUnivNetから退会した。

現在、岐阜県下では52校（2023年4月現在）がユネスコスクールに加盟しており、それぞれ地域に根ざした特色のある活動を行っている。平成29年度よりチャレンジ期間やユネスコスクールオンラインツールシステムの導入等、ユネスコスクール加盟申請手続きが刷新され、今後も普及と拡大が期待される。下記に、令和4年度の主な活動を紹介する。

### \*ユネスコスクール加盟申請手続きに係る支援

現在加盟申請手続きを行っている学校に対し、必要に応じて支援を行い、進捗状況を確認した。また、チャレンジ期間を開始した申請校に対し、学校訪問やESD研修会での交流、書類作成に係る支援を行い、また同校がチャレンジ期間を計画通り実施できるよう、申請手続きに係る助言を行った。当申請校は、令和4年度に、新たにユネスコスクールキャンディデート校となった。

### \*ユネスコスクールESD活動の支援

学校側の要望に応じて、ESDに関わるさまざまな専門分野の教員や外国人留学生の派遣を行っている。また、岐阜大学が開催するSDGsに関するオンライン講演会の案内を適宜紹介し、学校側の参加を促している。

### \*ESD研修会への参加

2023年1月8日に開催されたESD for 2030 TOKAIプロジェクト岐阜研修会（愛知教育大学主催）へ本学教育学部異徹教授が出席した。研修会では、異教授により実践事例紹介の講評及び会の総括が行われた。また研究会には岐阜県内のユネスコスクールキャンディデート校も出席されており、同校との交流も行われた。本研修会への参加により、岐阜県内のESD教育の更なる推進に資することができた。

## II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

### 1. 教育学部

#### 特別講義としてインドネシアから講師を招き「アンクルンを奏でる」を実施（6月28日）

6月28日、音楽教育講座「器楽合奏Ⅰ」の特別講義として、インドネシアから講師を招き「アンクルンを奏でる」を実施した。この講義は、松浦光男准教授研究室（音楽教育講座）と鈴木祥隆助教研究室（特別支援教育講座）とインドネシア教育大学の特別支援教育学科 Riksma 研究室、日本語教育学科 Dewi 研究室との共同開催で行われた。

講義前半はアンクルンのワークショップを行い、講義後半はハンドサインでアンクルンによる合奏が特別支援教育にどのように展開できるかについて講義を行った。当日は音楽教育講座、特別支援教育講座、留学生や教職員、インドネシア教育大学の学生（Zoom 参加）など約90名が参加した。講義の取り組みはインドネシア国内のメディア13社、NHKWorldJAPAN、教育芸術社 Vent など国内外のメディアに取り上げられた。

なお本講義は、駐日インドネシア大使館、インドネシア教育文化省、西バンドン市の協力を得て行われた。



## 2. 地域科学部

### 留学説明会・オンライン交流会（7月14日）

7月14日に国際教養プログラム3期生向けの留学説明会と、留学中の国際教養コース4期生とこれから海外留学に出発する国際教養プログラム2期生が同席した意見交換会をハイブリッド開催した。留学中のノーザンケンタッキー大学2名、サンディエゴ州立大学1名、高麗大学1名と地域科学部の学生10名が参加した。当日は、まず国際交流委員長より交換留学の概要やスケジュール、語学力向上のためのカリキュラムやサポート体制、奨学金等の留学支援制度についての説明が行われた。その後、留学中の国際教養コース4期生4名が合流し、ブレイクアウトルームにわかれてこれから海外留学に出発する学生が同席した意見交換会を行った。海外留学経験者と直接対話することにより、留学への意欲向上につながられただけでなく、海外留学経験者ネットワークの充実にもつながった。



### FD 兼留学報告会（2023年1月18日）

2023年1月18日に交換留学を終えて帰国した国際教養コース4期生について、学部内での情報共有と、今後留学を希望するコース学生への情報提供を目的としてFD 兼留学報告会をハイブリッド形式にて実施した。留学から帰国後の国際教養コース4期生5名（留学中を含む）から留学先での勉学や生活の様子について、実体験を交えて報告された。報告会にはリモートも含め教員27名、国際教養プログラムの地域科学部の学生4名が参加した。留学経験を学生教員間で共有するとともに、今後留学を考える際に有用な情報提供の機会となった。



### サンディエゴ州立大学訪問（2023年3月1日～3日）

2023年3月1日（水）から3日（金）にかけて、和佐田裕昭教授及び神谷宗明准教授がアメリカ合衆国の岐阜大学学術交流協定校であり、現在国際教養プログラムの学生が留学をしているサンディエゴ州立大学を訪問した。留学中の学生と面談ののち、大学構内、図書館、体育館、教室、大学内の食堂、大学付近のスーパー等の視察を行った。これらから同大学の学習環境、生活環境、安全性等を把握できた。また、同大学の国際交流関連オフィスを訪問して、日暮教授、Eddie West氏、Renee Rodriguez氏、Chris Kjonaas博士、Sophia Man氏と意見交換を行なった。同大学への留学を希望する学生達に対して提供すべき今後の展望を含めた有益な情報を得ることができた。



### 国立中央大学訪問（2023年3月1日）

2023年3月1日（水）に、岐阜大学地域科学部と部局間の連携協定を締結している国立中央大学（中華民国（台湾））を訪問して、同大学の英語文学系主任 黄道明教授、文学院代理副院長 單維彰教授、歴史研究所（桃園学研究センター）鄭政誠教授、台湾昆劇団団長 洪惟助教授、言語中心李明懿助理教授、国際事務處長 土木工程學系 許協隆教授、国際事務處海外教育推廣組 宋糧如氏と、各種の意見交換を行うとともに、同大学の国際交流関連オフィス、同大学構内を視察し、同大学の学習環境、生活環境、治安等を確認した。地域科学部の学生たちが興味を持つ授業等の内容を擁している、同大学への留学を希望する学生達に対して提供すべき有益な情報を得ることができた。



### 3. 医学部・医学系研究科

#### 南フロリダ大学（米国）との交流会の開催（7月5日）

7月5日（17時30分～19時）、医学教育開発研究センター（医学部本館8階）において本学保健管理センターに短期留学中の南フロリダ大学（USF）公衆衛生学科および医学科の学生3名（Natalie Nagibさん、Naomi Hayesさん、Cathelencia Francisqueさん）と、2023年にUSFの教育病院であるタンパ総合病院で実習予定の本学医学科学生2名（高橋克弥さん、福田仙一さん）との交流会を開催した。USFとは2016年に部局間協定を締結して以来、本学医学部医学科の学生2名がUSFでの4週間の臨床研修、およびUSF Medical Schoolの学生2名が本学での4週間の研究短期留学を毎年継続的に実施し、相互交流を行っている。医学科学生にとっては、アメリカでの臨床研修2枠が確保されるため、とても貴重な学習機会となっている。本交流会では、医学教育開発研究センター 今福輪太郎 兼任講師、保健管理センター 山本真由美 教授および三輪貴生 助教が出席する中、USFの学生が岐阜大学の短期留学期間中に実施した研究プロジェクトとフロリダ州タンパでの学生生活や文化などを紹介した。出席した本学教員や学生からは多くの質問があり、活発な意見交換がなされ、親睦を深める貴重な機会となった。

南フロリダ大学は大学間学術協定校であり、この交流会で相互の学生交流を推進することができたといえる。特に、コロナ禍で中断していた対面による国際交流を再開できた点で意義のある時間となった。



左から 今福兼任講師、福田さん、高橋さん、Francisqueさん、Nagibさん、Hayesさん、山本教授、三輪助教

#### 今福兼任講師が南フロリダ大学を訪問（2023年2月7日～11日）

2023年2月7日～11日に、本学医学教育開発研究センター 今福輪太郎兼任講師が大学間学術協定校の南フロリダ大学（USF）およびタンパ総合病院を訪問し、ポストコロナにおける国際交流の在り方と発展に向けて、各担当者と意見交換を行った。

今回の訪問は、USF Health InternationalのAssistant Vice PresidentおよびUSF Medicine InternationalのAssistant DeanであるLynette Menezes教授とUSF Health, Study Abroad and International ProgramsのAssistant DirectorであるJesse Casanova氏の交流推進へのご尽力により実現した。

留学生の派遣・受入れを担当するUSF Health Internationalでは、USFでの臨床実習の参加申請手続きや実習の診療科選択での注意点について、タンパ総合病院では臨床教育担当者から教育システムや指導方針について直接話しを聞くことができた。シミュレーションセンター（CAMLS: Center for Advanced Medical Learning and Simulation）、センター長Yoshiharu Okuda教授からは、アメリカのシミュレーション教育の現状やCAMLSの施設及び運営体制についての説明があった。また、南フロリダ大学のシミュレーション医学教育を総括する教育担当者からは標準模擬患者（SP）の育成及びSP参加型教育の開発について意見交換をすることができた。特に、多文化共生社会における患者対応の教育のためにスペイン語をはじめとする多言語の模擬患者育成に力を入れていることを知ることができた。

今回の訪問は、大学間協定における学生交流だけでなく教員交流の推進にもつながるものとなったといえる。また、岐阜大学およびUSFの双方が前向きに国際交流の活発化を希望していることも実感できた。



USF Health International: 左からMitchell氏、Smith氏、今福兼任講師、Westmoreland (IACE), Casanova氏



CAMLS: 左から今福兼任講師、Prof. Okuda (CAMLS Director)

## 4. 工学部

### 東ティモール国立大学工学部学生の短期受入による交流活動

東ティモール国立大学工学部と本学工学部電気電子情報工学科は JICA 支援を受け、10年以上の研究交流を続け、深井研究室は国づくり政策の支援活動に参画している。2017年度からは JASSO 留学生交流支援プログラムを活用し、成績優秀者を短期留学生として受け入れている。COVID-19により一時中断されたが、2022年から再開し、2名を3カ月間受け入れた。従来、留学生は JASSO 奨学金と母校からの留学支援金を受けていたが、今回は母校からの援金が無く、家族からの援助も不可能であった。しかし、彼らの熱意と協定校との良好な関係構築を考慮し、深井英和先生は研究指導だけでなく、彼らの生活全般に関わる支援を行った。また、工学部の同窓会組織「工業倶楽部」から援助金も得ることができ、日本人学生との交流を楽しみながら研究活動ができた。この経験が輝かしい人生と自国の発展に貢献できればと願っている。



高山研修：飛騨の里



高山研修：高山陣屋

### Home-coming 短期滞在と研究強化

多くの卒業生・修了生から、帰国後での研究活動の継続が大変困難であることから、本学部は「工業倶楽部」の支援により、工学部・工学研究科の卒業・修了生で、現在母国にて研究者・公務員・教員等として勤務されている元留学生への一時滞在支援を行っている。2022年度は、新型コロナウイルス感染症が一段落して交流が開始されたことに伴い、卒業生との一層の関係強化を図るため、home-coming 短期滞在と研究強化事業を行い、共同研究の活性化と学生間の交流を強化に繋げた。滞在中のOB・OGによる公開講演会(open seminar) も行い、OB・OG との交流を通じ、工学部学生に国際感覚を養う貴重な機会を提供し良い刺激を与えることができた。また、学生の交流を通じた共同研究の涵養に繋がると思われる。



実験中の風景



オープンセミナー時の風景

## 5. 連合農学研究科

### 岐阜大学大学院連合農学研究科が「IC-GU12 Roundtable Meeting 2022」を開催 (11月9日)

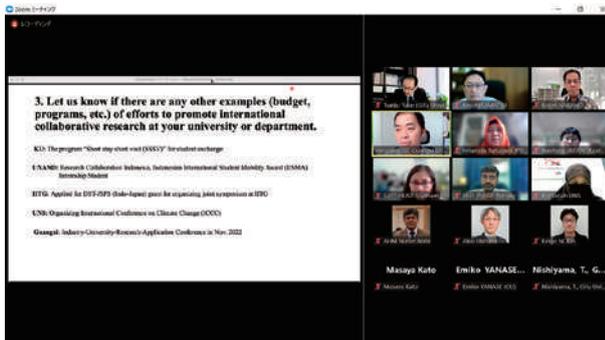
岐阜大学大学院連合農学研究科（博士課程）は、11月9日（水）に南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム加盟校（日本を含む南部アジア地域9カ国20大学）（以下、IC-GU12という）による「IC-GU12 Roundtable Meeting 2022」（農学系博士教育国際連携円卓会議）（以下、ラウンドテーブルという）をオンラインで開催した。

ラウンドテーブルでは、各大学教員等20名が出席して、各大学の国際共同研究の実施状況や事例についての総合討論が行われた。

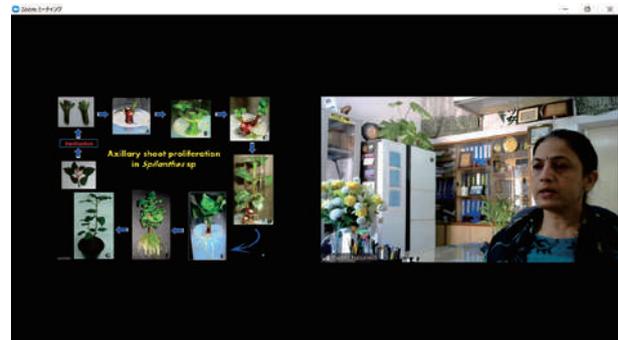
続いて、「The 1<sup>st</sup> International Joint Seminar on Agricultural Science and Biotechnology」を開催し、今年度は自然生成物化学・生物学をテーマに Rakhi Chaturvedi 教授（インド工科大学グワハティ校）、Yanico Hadi Prayogo 氏（ボゴール農科大学）、小堀光准教授（静岡大学）が講演を行い、IC-GU12の学生を中心に約120名が参加した。

その後、本学の流域水環境リーダー育成プログラムと共催で、「UGSAS-GU & BWEL Joint Poster Session on Agricultural and Basin Water Environmental Sciences 2022」を開催した。学生22名が参加してオンラインポスターセッションが行われ、優秀発表学生5名にはポスター賞が授与された。

ラウンドテーブルでは各大学の研究に関わる問題の解決のヒントを得ることができ、また、セミナーでは最新の研究事情に触れることができ、大変有意義な会議となった。



ラウンドテーブルの様子



セミナーでの Rakhi Chaturvedi 教授  
(インド工科大学) の講演



ポスターセッション受賞者  
(岐阜大学会場) 集合写真

## 6. 保健管理センター

### 南フロリダ大学（米国）との交換留学ーコロナ禍後の再開ー

1980年代から本学医学部のポスドク研究者が南フロリダ大学（USF）医学部へ留学し、交流の歴史を重ねてきた。このような交流活動を発展させるために、2016年にUSF医学部と本学医学部は部局間協定を締結した。これにより、本学医学部医学科5年生2名がタンパ総合病院で臨床研修を、USFメディカルスクール2年生2名が本学保健管理センターで研究留学を交換するシステムが確立した。その後、USF公衆衛生学部やオナーズカレッジ学部生が本学を訪問して、看護学科3年生と医療英語の実習クラスを共に体験するなど活発な交流が進んだ。残念ながら2020～2021年はコロナ禍のためにオンライン交流のみと活動が滞っていたが、2022年より再開した。

2022年6月に公衆衛生学修士課程のNatalie Nagibさん、Naomi Hayesさん、メディカルスクールのCathelencia Wanna Francisqueさんの3人が、本学保健管理センターでの短期研究留学に参加した。保健管理に関するデータを分析し、国際論文を作成するプログラムに参加し、充実した4～8週間を過ごした。2022年6月15日に3人が吉田和弘学長を表敬訪問し、『南フロリダ大学は学生数4万5000人ととても大きいので卒業式ぐらいしか学長に会えないが、岐阜大学では学長先生にお会いできてとても幸せ。週末には日本の各地を訪問し、素晴らしい文化に触れることができ、日本を大好きになりました。』とっていたNatalieさんの言葉は印象的であった。一方、2022年1月には医学部5年生の福田仙一さんが、2月には高橋克弥さんがタンパ総合病院で4週間の臨床研修プログラムに参加し、有意義な経験をして帰国した。2023年も多くの交流プログラム計画を準備しており、今後とも両大学の交流が発展することを期待している。



学長室にて

## Ⅲ. 大学の国際化と学生支援

### リトアニアとの交流

工学部機械工学科知能機械コース  
毛利 哲也

#### 1. リトアニアとは？

リトアニアは、バルト海に面した北ヨーロッパに位置する国の一つです。日本では、エストニア、ラトビアと併せてバルト三国とよばれており、首都はビリニュス、面積は65,300km<sup>2</sup>、人口は約300万人です。リトアニアは、中世からリトアニア大公国、ポーランド・リトアニア共和国として、またロシア帝国の一部として存在していました。第一次世界大戦後の1918年2月18日にリトアニアはロシア帝国から独立を果たしました。しかし、第二次世界大戦中にはソビエト連邦に併合されましたが、1990年3月11日に再び独立を宣言しています。このため、リトアニアには独立に関する祝日が二日あります。現在の国名はリトアニア共和国です。リトアニア語が公用語で、インド・ヨーロッパ語族のバルト語派に分類されます。その歴史は古く、サンスクリット語などとの共通点も指摘されています。無知な筆者はリトアニア滞在時に「リトアニア語はロシア語に似ていますか？」と聞いてお叱りを受けたので、皆様はくれぐれもお気を付け下さい。

リトアニアでは、寿司、ポップカルチャー、アニメなどの日本文化が多く知られていますが、日本ではリトアニアの文化はあまり知られていません。例えば、リトアニアでの食事は、ジャガイモと黒パン（ライ麦パン）が主食です。黒パンはリトアニア人に欠かせない食物で1年間の消費量が110kgとされています。ジャガイモは1kgで50円程度と日本と比較すると格安で購入できます。パンケーキ「ブルヴェ・ブリーナイ」はすりおろしたジャガイモに小麦や牛乳を混ぜて焼き、サワークリームをかけて食べます。とてもシンプルな食べ物ですが、とても美味しいです。「ツェペリナイ」は肉をジャガイモで作った団子で包み、茹でてサワークリームや野菜を入れたソースを掛けて食べています。その名前の由来はドイツの飛行船「ツェッペリン号」に由来していると言われています。このようなジャガイモ料理が多いので、日本の炊飯器のようにジャガイモ専用の電動おろし機が一家に一台あります。筆者は現地で実物を見ましたが大きな音と共にジャガイモが一瞬ですりおろされました。夏場に飲むサワースープ「シャルティ・バルシチェイ」もおすすめです。見た目にも鮮やかなピンク色をしており、是非一度は試していただきたいです。ピンク色はビーツ（赤カブ）とヨーグルト（ケフィア）を混ぜることで生み出されます。キュウリやゆで卵が具として入っており、爽やかな味を醸し出しています。リトアニアではスープは「飲む」ではなく「食べる」と言われており、肉、魚、豆、野菜など多くの具が入っています。トゥラカイ近辺では「キビナイ」というミートパイが食されており、噛むとアツアツの肉汁が口いっぱいにあふれ出てきます。キビナイの起源はリトアニアの民族ではありませんが、いまはリトアニア料理の一つとされています。「シャコティス」は見た目が特徴的なトゲトゲがある伝統的な菓子で、バームクーヘンの原形と言われており、作るのに手間がかかるため特別な日に食されています。



左からツェペリナイ、シャルティ・バルシチェイ、キビナイ、シャコティス

## 2. 岐阜大学との交流

日本より初めてリトアニアを訪問したのは、1862年に江戸幕府よりヨーロッパへ派遣した福沢諭吉を含む文久遣欧使節と考えられています。1922年にはロシア帝国から独立したリトアニアと日本は正式な外交関係が樹立され、交流を深めていきました。1940年には、当時の首都カウナス（現在の首都はビリニュス）では岐阜県出身の杉原千畝氏（在カウナス日本領事館領事代理）が、ドイツ占領下のポーランドから逃亡してきた多くのユダヤ避難民のために人道的な立場でオランダ領キュラソーへ向かう「命のビザ」（通過査証）を発給するのに尽力しました。近年、この杉原千畝氏を縁の一つとして、岐阜県ではリトアニアと友好親善を図るため、岐阜・リトアニア友好協会も設立されて、人と文化の交流を進められています。例年、夏から秋にはリトアニアの多彩な魅力を発信するイベント「リトアニアNOW」が開催されており、岐阜大学でも関連するイベントを実施しています。

岐阜大学では工学部の藤井洋名誉教授、川崎晴久名誉教授、佐々木実名誉教授が1990年代頃よりカウナス工科大学（KTU）と人的な交流を進めてきました。リトアニアより来日した Inga Skiedraite 先生は2001年に岐阜大学で博士号取得後、非常勤研究員として勤務されていました。また、Vytautas Daniulaitis 先生も非常勤研究者として来日して、2005年に開催された「愛・地球博」に川崎研究室より出展しました多指ハプティックインターフェイスロボットの研究開発に協力していただきました。両名共に帰国後は KTU で学生たちへの指導や研究で活躍されています。そのような交流の中、2010年には KTU と岐阜大学は大学間協定を締結しました。それを機会に川崎晴久名誉教授（当時のリエゾン）より教員交流として、筆者は2010年10月～2011年3月に KTU へ客員研究員として派遣されました。当時は日本でのリトアニアに関する情報はとても少なく、日本語での出版物も Web サイトもほとんどなく、渡航前に入手できた「地球の歩き方」が唯一の情報源でした。当時の2009年版では、滞在したカウナスについては8頁の情報のみでした（2019年版では10頁）。カウナスへ到着してからは日本語を話す機会もなく、しばらくは職場と住居を往復するだけのさびしい毎日でした。カウナス市街地には杉原千畝氏が「命のビザ」を発行した日本領事館が記念館（通称：スギハラハウス）として整備されており見学しました。その際に2階がヴィータウタス・マグヌス大学（VMU）の一部になっていて、毎週金曜晩に日本文化サークル「橋」が活動していることを知りました（現在は2階も杉原記念館）。「橋」にはヴィータウタス・マグヌス大学の学生だけでなく、日本文化に興味があるカウナス工科大学学生、社会人、高校生、日本からの留学生が積極的に活動していました。筆者も日本の科学技術の一例としてロボットを紹介したり、日本料理（手巻き寿司、餃子、うどん等）を作ったりして親睦を深めました。「橋」のメンバーとの交流から VMU アジア研究センター所長 Aurelijus Zykas 先生とも面談する機会があり、それをきっかけに2012年には VMU と岐阜大学は大学間協定を締結しています。渡航後すぐは帰国日を指折り数えていましたが、帰国直前にはリトアニアでの生活がとてもとても楽しくて何とか帰国を延ばせないかと考えていました。帰国後のリトアニアとの交流は、2017年には KTU の交換留学生を毛利研究室で受け入れ、2018年と2019年には研究室より KTU へ学生を短期派遣しています。2018年には「リトアニ



スギハラハウス



右から吉田和弘学長、Aurelijus Zykas 駐日リトアニア共和国特命全権大使、毛利哲也（2023年3月2日）

アNOW2018」で来日したKTU フォークダンスアンサンブル部「Nemunas（ネムナス）」が Gediminas Varvuolis 駐日リトアニア共和国大使とともに岐阜大学工学部へ来訪しています。また、VMU アジア研究センター所長 Aurelijus Zykas 先生を岐阜大学へ招いて特別講演も開催しました。さらに、岐阜県国際交流員として Simona Vasilevskyte 様が、リトアニア杉原記念館 プロジェクトマネージャー Arvydas Kumpis 先生が毛利研究室の外国人研究者として来岐しました。2019年10月には Gitanas Nausėda リトアニア共和国大統領が岐阜大学にて「Lithuania and Japan : The way forward」と題してリトアニアと日本の交流の歴史、文化、経済、今後の関係について特別講演して

いただきました。また、2021年11月には Algimantas Misevičius 駐日リトアニア共和国大使館臨時代理大使と学生の交流会を行い、活発な意見交換を行いました。さらに、2022年には Aurelijus Zykas 先生が駐日リトアニア共和国特命全権大使として来日しており、8月には岐阜大学に来訪しています。

リトアニアで過ごした「橋」での活動はとても有意義でした。ぜひ日本でもリトアニア文化を紹介・体験していきたいと思い、このような岐阜大学とリトアニアとの交流が活発なことを背景にして、2019年5月には Simona Vasilevskyte 様や Arvydas Kumpis 先生に協力いただき、リトアニアの理解を深めるために「リトアニア勉強会」を初めて開催し、その後も不定期に年数回学内外向けに継続しています。講師としてリトアニアに関係する様々な専門分野の方々を迎えて、リトアニアの文化について紹介いただいています。さらに、2021年4月からは岐阜大学の全学共通教育科目「異文化論（リトアニア学）」も開講して、国際的な視野をもつこと、相互に交流できること（日本人にリトアニアを紹介、リトアニア人に日本を紹介）を目標として、多くのリトアニアや杉原千畝氏に関係するゲスト講師を招聘し、リトアニアの歴史、文化、生活様式を単に学ぶだけでなく、リトアニアとの交流を進めるための考える力を身につけるようにグループワークも実施しています。Aurelijus Zykas 大使にも、大使着任前にゲスト講師として大使が制作されたドキュメンタリー映画「カウナス、スギハラを、日本を想う」を解説していただきました。また、筆者がカウナス滞在時には VMU の留学生でした高木伽耶子先生は現在 VMU アジア研究センターに所属されて日本語講師としてもご活躍されており、リトアニア勉強会やリトアニア学に多大なご協力をいただいています。今後もリトアニアに限らず、地域に根ざした国際交流ができるグローバル人材育成に尽力していきたいと考えています。



リトアニア勉強会（2019年5月15日）

## 大学の世界展開力強化への取り組み（インドを対象として）

前グローバル推進機構長（現工学部長）  
植松 美彦

文部科学省では平成23年度から、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指して「大学の世界展開力強化事業」を運用しています。岐阜大学は令和4年度の世界展開力強化事業に初めて採択され、初年度が過ぎたこととなります。この世界展開力強化事業は、毎年対象とする地域や内容を変えて募集がなされるものであり、例えば令和3年度は「アジア高等教育共同体形成推進」だったり、令和2年度は「アフリカ諸国との間で実施する事業」が対象だったりしました。本学が得意とするインドについては、平成26年度と29年度に対象地域となり、本学からも申請はしていたものの、採択にはいたりませんでした。しかし、その間も着々とインドとの交流を深めたことが、外部機関から評価され始めたこともあり、令和4年度「インド太平洋地域等との大学間交流形成支援」での採択にいたったと言う背景があります。今回採択にいたった申請は「グローバル JDP プラットフォーム形成による北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成」になります。

まず、本学はインド工科大学グワハティ校（以降 IITG）と協働教育プログラムであるジョイント・ディグリープログラム（以降 JDP）を3件運用しており、採択された申請はこの JDP と深く関連しています。簡単に「JDP を運用しています」と申し上げましたが、この JDP を IITG と立ち上げるのには膨大な労力がかかっており、現時点でインドと JDP を運用しているのは国内では岐阜大学だけです。岐阜大学の JDP は平成31年（すぐに令和元年になりました）に運用が開始されました。しかし、その礎は公式には連合農学研究科が平成24年に IITG と締結した部局間学術交流協定にさかのぼります。僕が所属する工学部も、2年遅れること平成26年に部局間学術交流協定を締結しましたが、そのために前年の平成25年には IITG を訪問して交流協定の締結を議論しました。すなわち、平成24年よりも以前から、連合農学研究科の先生方は IITG を訪問して交流を開始しており、最初の交流開始から JDP の運用開始まで7年以上の月日が流れたこととなります。その間に、JDP 開設へ向けた数々の会議が行われただけでなく、学長の IITG 訪問、ウィンタースクールやスプリングスクールによる学生の相互交流などが行われ、JDP が築き上げられたわけです。令和4年には、全国大学 JDP 協議会が発足しましたが、岐阜大学は JDP への取り組みが外部からも高く評価され、協議会の会長校として全国 JDP の中心的存在となっています。

令和5年は日本が G7 議長国、インドが G20 議長国を務める年であることから、令和5年3月には日本の岸田総理がインドを訪問してナレンドラ・モディ首相と会談し、インドと日本の関係の重要性を訴えました。また岸田首相がスピーチの中で、IITG が重点大学となっているインド北東部について、経済的に未発掘のポテンシャルを有していること、インド北東部の産業バリューチェーン構想を推進していくこと、などを発言したことは特筆に値します。日本が国を挙げてインドとのパートナーシップ構築を推進している中、どうも日本国内では岐阜大学だけがインドの大学と JDP を運用している、しかもインド北東部の重点大学とである、と省庁も知るところとなり、最近では文科省だけでなく経産省などからも、JDP に関連して立ち上げている JDP コンソーシアムなどへの問合せがあつたりします。この JDP コンソは、岐阜を中心とする東海地区の企業、JICA のような公的機関、インド北東部の企業や商工会などから形成されています。岐阜大学の JDP は学術的な研究や教育だけでなく、このような地域産業界間の交流や地域貢献を推進する点も特徴としており、岸田首相のスピーチに先駆けた内容になっていることから、大きな注目を集めたわけです。

長々と書きましたが、このような背景の中、本学で「世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」が採択されました。本プログラムでは、IITG、岐阜・東海地域及び北東インド地域の産官学と連携した各種取り組みを通じて、高度人材育成および地域・国際社会の発展に貢献していくものであり、日本人学生の海外留学と外国人学生の受入れを行う国際教育連携の取組を5年間継続支援します。

それでは、本学における世界展開力強化事業について簡単にお話しします。プログラムの正式名称は「グ

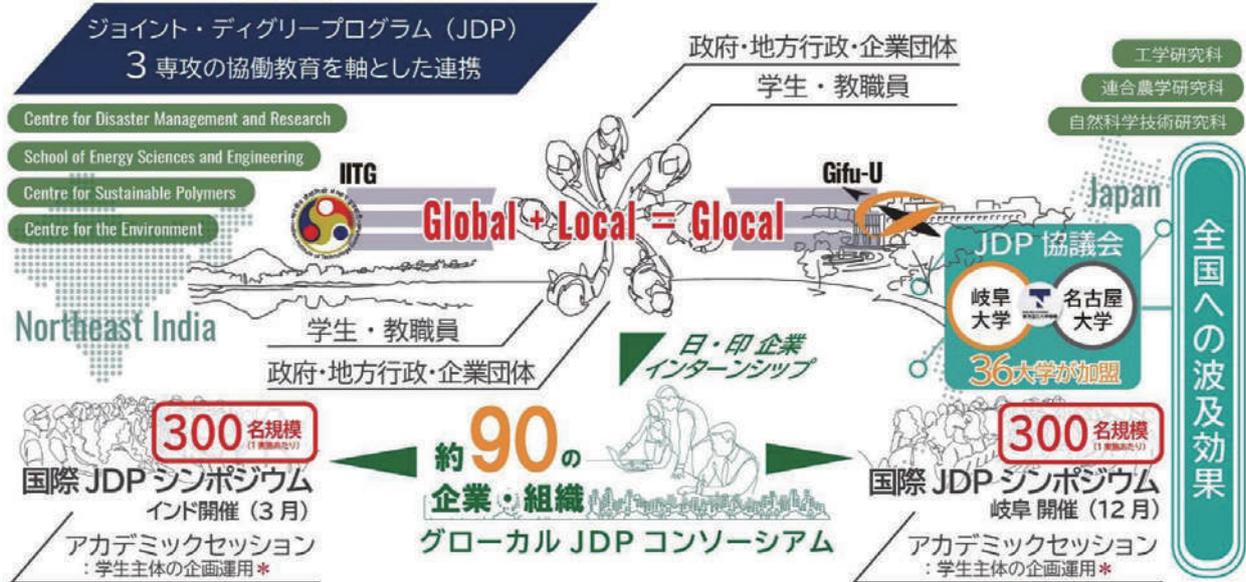


ローカル JDP プラットフォーム形成による北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成」です。R4年度は採択件数が7件と狭き門でしたが、複数の相手国を対象としたり、複数の大学からの合同申請だったりする中、インド1国を対象とし、単独の大学からの申請で採択されたのは本件のみです。プログラムのポイントは、1枚目のポンチ絵にあるように、3つのJDPを設置・運営する岐阜大学とIITGが連携し、岐阜を中心とする東海地域や北東インド地域の産官学（JDPコンソーシアム）も協働して国際連携教育に貢献するグローバルJDPプラットフォームを形成すること。それを活用することで「食品・サプライチェーンエキスパート」、「減災・防災エキスパート」、「サステナブルエネルギーエキスパート」の分野で修了証が発行できる教育プログラムを構築して、グローバル高度人材を育成すること、になります。この修了証は、もちろん岐阜大学だけでなく、IITGからも認証されるものです。これについては、2枚目のポンチ絵にあるように、地球規模課題の理解や国際的な共創体験ができる学部学生向けの短期留学や長期継続型オンライン交流プログラム（グローカリストコース）、産学連携・国際共同研究等のリーダー育成に向けた大学院学生向け修了証発行型プログラム（エキスパートコース）からなる、段階的・体系的なプログラムとなります。また、JDPコンソーシアムに加盟する企業でのインターンシップの実施や、企業人によるアントレプレナー教育によって、国際的に活躍できるグローバル高度人材の育成を目指しています。さらに国際シンポジウムを通して、JDPコンソーシアム加盟企業・組織の相互交流機会を創出し、両地域の課題を世界的な視点で解決する地域貢献も含まれている点が特徴的です。大学の国際化促進フォーラムや全国大学JDP協議会も活用して、協働教育や地域貢献の全体を統括できるグローバルJDPプラットフォームを構築して展開することが目標となっています。このように、プログラムは段階的・体系的なものとなっていますが、R4年度は初年度であり、まだまだプログラムは走り出したばかりです。しかしその中でも、すでに12月にはIITGから教員と学生が岐阜大学を訪問するウィンタースクール、3月には岐阜大学の教員と学生、および東海地区の企業がIITGを訪れるスプリングスクールが実施されました。もちろんその中で、岐阜大学とIITGが認定する修了証を発行するための教育プログラムに関する打合せが数多く行われています。この3月の訪問では、IITG側でJDPシンポジウムが開催され、岐阜大学の学生からの自己紹介などもあり、盛会となりました。また教員や東海地区の企業人が、北東インド地域商工会（FINER）のメンバーと交流を持つなど、世界展開力強化事業を通して着実に交流が進む1年となりました。本事業は始まったばかりですが、R5年度内には実際の教育プログラムがスタートする予定であり、今後のますますの発展が期待できるものとなっています。

今回はインドを対象とした記事でしたが、JDPはマレーシア国民大学（UKM）とも運用しており、現在はフランスやリトアニアの大学との交流も盛んです。インドだけではなく、これからも多種多様な国々と交流を進めて行く必要があります。

グローバル JDP プラットフォーム形成による  
北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成

専門性と国際性を併せ持ち、地域活性化を地球規模の視点で実行する地域国際化力を持つ  
グローバル高度人材（グローバルエキスパート・グローバルリスト）を育成する



北東インドの災害対策の必要性  
→岐阜大視察（2019）後、災害マネジメント研究所  
（Center for Disaster Management and Research）を新設（2021）



ものづくり圏・東海の中小企業の  
海外展開とそれを支える人材の必要性

グローバル高度人材育成プログラム  
Glocal Innovative Leaders Program : GILP

※プログラム内数値は5年間の目標値を記載。



### 1. 令和4年度 グローカル推進機構名簿

所属・職名等	氏名	運営委員会	奨学金等選考委員会	部 門				国際企画部門WG	JD調整担当者会議	年報	HP	英語研修チーム	短期受入チーム	交流推進チーム	愛媛留学生就職支援コンソーシアムプロジェクトチーム	JDシンポジウムWG	任期
				国際協働教育推進部門	地域国際化推進部門	留学推進部門	国際企画部門										
副学長 (国際・情報・評価(副)担当)	神原 信志	○														◎	44~6.3
グローバル推進機構機構長	植松 美彦	◎	◎												○	○	44~6.3
グローバル推進機構副機構長 (日本語・日本文化教育センター長)	橋本 慎吾	○	○												○		44~6.3
グローバル推進機構・特任教授	三輪 真一	○			○										○	○	44~5.3
グローバル推進機構・助教	松井 真弓	○		○	○	○	○	○	○	◎		○	○				44~6.3
グローバル推進機構・客員教授	柴田 大輔				○											○	44~5.3
グローバル推進機構・客員教授	青木 哲史				○											○	44~5.3
日本語・日本文化教育センター・教授	森田 晃一																-
日本語・日本文化教育センター・教授	土谷 桃子	○				○							○				34~5.3
日本語・日本文化教育センター・准教授	吉成 祐子						○				○						34~5.3
日本語・日本文化教育センター・特任助教	松尾 憲暁				○										○		44~5.3
国際事業課長	北野 信哉	○	○	○	○		◎	◎	○	○	○				○	○	34~5.3
国際総務室長	照元 直樹	○		○	○		○	○								○	34~5.3
留学支援室長	日比野 崇	○			○	○	○	○							○		44~6.3
教育学部・教授	巽 徹	○				○					◎						34~5.3
教育学部・教授	野村 幸弘						○			◎							32~5.1
教育学部・准教授	仲 潔					○							○				34~5.3
教育学部・助教	林 日佳理					○						○					34~5.3
地域科学部・教授	笠井 千勢					○						○					34~5.3
地域科学部・教授	合掌 顕						○								○		34~5.3
地域科学部・准教授	神谷 宗明	○				○							○				34~5.3
医学系研究科・医学部・教授	千田 隆夫	○					○										34~5.3
医学教育開発研究センター・併任講師	今福輪太郎					○							◎				34~5.3
医学部・看護学科・准教授	佐々木彩子	○					○				○						44~6.3
医学部・看護学科・助教	佐野亜由美					○						○					34~5.3
工学部・教授	嶋 陸宏	○	○	○		◎									○		44~6.3
工学部・教授	久米 徹二	○		○	○		○		◎		○				○	○	34~5.3
工学部・教授	リム リーワ			○	○				○							○	34~5.3
工学部・教授	板谷 義紀			○													34~5.3
工学部・教授	伊藤 聡			○													34~5.3
工学部・教授	伊藤 貴司			○													34~5.3
工学部・教授	王 道洪			○													34~5.3
工学部・教授	小宮山正治			○													34~5.3
工学部・教授	佐々木 実			○													34~5.3
工学部・教授	高橋 周平			○													34~5.3
工学部・教授	杳水 祥一			○	○											○	34~5.3



所属・職名等	氏名	運営委員会	奨学入金等選考委員会	部門				国際企画部門WG	JD調整担当者会議	年報	HP	英語研修チーム	短期受入チーム	交流推進チーム	愛岐留学生就職支援コンシエールネットワークチーム	JDシンポジウムWG	任期
				国際協働教育推進部門	地域国際化推進部門	留学推進部門	国際企画部門										
工学部・教授	上宮 成之			○													3.4~5.3
工学部・教授	海老原昌弘			○													3.4~5.3
工学部・教授	大矢 豊			○													3.4~5.3
工学部・教授	加藤 邦人			○													3.4~5.3
工学部・教授	瀬瀬 守			○													3.4~5.3
工学部・教授	武野 明義			○													3.4~5.3
工学部・教授	伴 隆幸			○													3.4~5.3
工学部・教授	村井 利昭			○													3.4~5.3
工学部・教授	杉浦 隆						○										3.4~5.3
工学部・准教授	小林 信介			○	○											○	3.4~5.3
工学部・准教授	高橋 康宏			○													3.4~5.3
工学部・准教授	岡 夏央			○													3.4~5.3
工学部・准教授	新田 高洋			○		○						○					3.4~5.3
工学部・准教授	毛利 哲也					○							◎				3.4~5.3
工学部・准教授	木下 幸治					○					○						3.4~5.3
工学部・助教	川瀬 真弓				○	○							○	○			3.4~5.3
応用生物科学部・教授	小山 博之	○	○	○	◎										◎	○	4.4~6.3
応用生物科学部・教授	西津 貴久			○	○		○								○	○	3.4~5.3
応用生物科学部・教授	上野 義仁	○		◎				○								○	3.4~5.3
応用生物科学部・教授	石田 秀治			○													3.4~5.3
応用生物科学部・教授	岩橋 均			○													3.4~5.3
応用生物科学部・教授	光永 徹			○													3.4~5.3
応用生物科学部・教授	矢部 富雄			○													3.4~5.3
応用生物科学部・教授	長岡 利			○													3.4~5.3
応用生物科学部・教授	中川 智行			○			○			○							3.4~5.3
応用生物科学部・教授	柳瀬 笑子			○	○			○								○	3.4~5.3
応用生物科学部・教授	山田 邦夫	○															4.4~5.3
応用生物科学部・教授	山本 義治			○													3.4~5.3
応用生物科学部・准教授	小林佑理子			○		○					○						3.4~5.3
応用生物科学部・准教授	島田 昌也			○	○												3.4~5.3
応用生物科学部・准教授	清水 将文			○	○												3.4~5.3
応用生物科学部・准教授	鈴木 史朗				○											○	3.4~5.3
応用生物科学部・准教授	今村 彰宏					○											3.4~5.3
応用生物科学部・助教	今泉 鉄平				○												3.4~5.3
応用生物科学部・助教	ジャヒマンジュセカ			○													4.10~6.9
応用生物科学部・助教	広田 勲					○							○				3.4~5.3
応用生物科学部・助教	山内 恒生					○						○					4.4~6.3
自然科学技術研究科・教授	海老原章郎	○		○	○			○								○	3.4~5.3
共同獣医学研究科・教授	海野 年弘	○															3.4~5.3
連合農学研究科・教授	中野 浩平	○		○													3.4~5.3
連合創薬医療情報研究科・准教授	古山 浩子	○															3.4~5.3
流域圏科学研究センター・教授	粟屋 善雄	○															3.4~5.3

所属・職名等	氏名	運営委員会	奨学金等選考委員会	部門				国際企画部門WG	JD調整担当者会議	年報	HP	英語研修チーム	短期受入チーム	交流推進チーム	シニアプロジェクトチーム	愛媛留学生就職支援コンソーシアムプロジェクトチーム	JDシンポジウムWG	任期
				国際協働教育推進部門	地域国際化推進部門	留学推進部門	国際企画部門											
地域協学センター・准教授	大宮 康一				○													4.4～6.3
人事労務課主幹	伊藤 幸保	○					○											3.4～5.3
教務課長	鷺見 浩二	○					○											3.4～5.3
学務部長	野々村晴子	○															○	
国際総務室国際総務係	宮本亜由子																○	
	津田 菜摘				○	○		○	○	○								
	奈良 友香																	
留学支援室留学支援係	日比野 崇																	
	山田美菜子		○		○	○	○	○				○	○	○	○			
	大橋 景子																	
	若園 悠聖																	

※グローバル推進機構長、委員長、部門長、専攻長、リーダーは◎

## 2. 協定一覧

### ●大学間協定 (19カ国49大学)

2023年3月31日現在

	大学・機関名	国・地域名	協定締結日	授業料相互不徴収	交換可能学生数*
1	カンピーナス大学	ブラジル	1984.8.27	有	2
2	サンディエゴ州立大学	米国	1985.5.7	有	2**
3	浙江大学	中国	1986.4.21	有	3
4	広西大学	中国	1986.4.24	有	4
5	電子科技大学	中国	1986.7.21	有	2
6	江南大学	中国	1986.9.3	有	3
7	ノーザンケンタッキー大学	米国	1990.9.26	有	2
8	ソウル科学技術大学校	韓国	1992.3.19	有	3
9	グリフィス大学	オーストラリア	1995.3.3	有	4
10	ユタ州立大学	米国	1997.5.29	有	2
11	ハノイ工科大学	ベトナム	1998.6.26	有	2
12	カセサート大学	タイ	1999.8.5	有	3
13	内蒙古農業大学	中国	2000.8.8	有	2
14	シドニー工科大学	オーストラリア	2000.8.14	有	3
15	バンノン大学	ハンガリー	2001.3.2	有	3
16	アングラス大学	インドネシア	2001.4.23	有	4
17	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2001.8.23	有	2
18	エルフルト大学	ドイツ	2002.12.4	有	3
19	吉林大学	中国	2003.5.20	有	4
20	チェンマイ大学	タイ	2003.8.4	有	3
21	ダッカ大学	バングラデシュ	2004.6.17	有	3
22	キングモンクット工科大学トンプリ校	タイ	2005.1.10	有	3
23	華僑大学	中国	2005.3.29	有	3
24	同済大学	中国	2006.3.16	有	2
25	ランボン大学	インドネシア	2006.4.25	有	2
26	内蒙古大学	中国	2007.2.6	有	1



	大学・機関名	国・地域名	協定締結日	授業料相互 不徴収	交換可能 学生数*
27	バイロイト大学	ドイツ	2008.8.22	有	4
28	ベンハー大学	エジプト	2009.3.18	有	2
29	高麗大学校	韓国	2010.1.15	有	2
30	カウナス工科大学	リトアニア	2010.3.8	有	4
31	ボゴール農科大学	インドネシア	2010.12.2	有	3
32	内蒙古師範大学	中国	2011.6.8	有	2
33	ヴィータウタス・マグヌス大学	リトアニア	2012.1.19	有	2
34	ガジャマダ大学	インドネシア	2012.9.13	有	3
35	スプラス・マレット大学	インドネシア	2013.7.8	有	3
36	パリ・サクレー大学	フランス	2014.12.16	有	3
37	インド工科大学グワハティ校	インド	2014.9.21	有	3
38	マレーシア国民大学	マレーシア	2016.9.21	有	2
39	マギル大学	カナダ	2017.3.8	無	-
40	アルバータ大学	カナダ	2017.3.21	無	-
41	レイクヘッド大学	カナダ	2017.10.11	有	2
42	マリアノ・マルコス州立大学	フィリピン	2018.9.10	有	2
43	フエ大学	ベトナム	2018.11.12	有	2
44	アッサム大学	インド	2018.11.20	有	2
45	サラマンカ大学	スペイン	2018.11.26	有	2
46	リール大学	フランス	2020.4.2	有	4
47	南フロリダ大学	米国	2020.12.15	無	-
48	ブラヴィジャヤ大学	インドネシア	2021.2.23	有	2
49	バンドン工科大学	インドネシア	2022.09.26	有	3

※毎年、1学年度の間に派遣または受入可能な最大限の人数を表しています。 ※※1年2名、半期4名

### ●部局間協定 (26カ国 1地域63学部)

2023年3月31日現在

協定部局	協定大学等名	国名	初回締結日	授業料相互 不徴収	交流対象者
教育学部	シーナカリンウィロート大学教育学部	タイ	2015.3.17	無	教員
	カールスルーエ教育大学	ドイツ	2015.10.21	有	学生・教員
	山西師範大学	中国	2015.12.7	有	学生・教員
地域科学部	アーカンソー大学フォートスミス校	米国	2015.6.8	有	学生・教員
	国立中央大学文学院	台湾	2021.1.14	有	学生・教員
医学部	浙江大学医学院	中国	2000.12.4	有	学生・教員
	コンケン大学医学部	タイ	2000.12.18	有	学生・教員
	忠北大学校医学部	韓国	2009.4.17	有	学生・教員
	ハワイ大学医学部	米国	2016.8.24	有	学生・教員
	ソウル大学校医科大学	韓国	2019.4.11	無	学生・教員
	シカゴ大学医学部	米国	2019.6.3	無	学生・教員
医学部・保健管理センター	南フロリダ大学医学学群	米国	2016.10.20	無 <sup>*1</sup>	教員 <sup>**2</sup>
工学部	全南大学校工学部	韓国	2002.2.6	有	学生・教員
	柳韓大学校工学系列	韓国	2010.9.29	有	学生・教員
	ベンクル大学数学自然科学部	インドネシア	2011.7.20	有	学生・教員
	サー・パラシユラムブ・カレッジ	インド	2012.9.17	有	学生・教員
	忠南大学校工学部	韓国	2013.1.18	有	学生・教員
	マドリード・カルロス三世大学工学部	スペイン	2013.7.9	有	学生・教員
	ドルトムント工科大学機械工学部	ドイツ	2014.6.23	有	学生・教員
	マンダレー大学自然科学系学部	ミャンマー	2014.8.25	有	学生・教員

協定部局	協定大学等名	国名	初回締結日	授業料相互不徴収	交流対象者
工学部	ヤダナボン大学自然科学系学部	ミャンマー	2014.12.16	有	学生・教員
	メティラ大学自然科学系学部	ミャンマー	2014.12.16	有	学生・教員
	デダンキマティ工科大学工学部	ケニア	2014.12.16	有	学生・教員
	トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学理工学部	マレーシア	2014.12.16	有	学生・教員
	慶北大学校工学部	韓国	2015.2.27	有	学生・教員
	アメリカ国立衛生研究所・国立心肺血液研究所	米国	2015.3.18	有	学生・教員
	バーデン・ヴェルテンベルク州立太陽エネルギー・水素研究センター	ドイツ	2015.3.20	無	学生・教員
	ブンハッタ大学	インドネシア	2015.7.30	有	学生・教員
	パダン州立大学数学自然科学部	インドネシア	2015.9.18	有	学生・教員
	チュラロンコン大学理学部	タイ	2015.12.2	有	学生・教員
	南京師範大学 エネルギー機械工学院	中国	2017.7.17	有	学生・教員
	ダゴン大学自然科学系学部	ミャンマー	2017.7.21	有	学生・教員
	インドネシア・イスラム大学土木工学・計画学部、数学・自然科学部	インドネシア	2018.2.23	無	学生・教員
	ブルネイ・ダルサラーム大学理学部	ブルネイ・ダルサラーム	2018.6.15	有	学生・教員
	ザンビア大学工学部	ザンビア	2019.1.30	有	学生・教員
	リアオ大学教員養成・教育学部	インドネシア	2020.3.3	無	教員
	長庚大学工学部	台湾	2020.3.18	有	学生・教員
	タイ国立電子コンピューター技術研究センター	タイ	2023.1.29	無	教員
工学部・地方創生エネルギーシステム研究センター	東ティモール国立大学工学部	東ティモール	2016.8.29	有	学生・教員
工学部・流域圏科学研究センター	クラクフ工科大学環境電力工学部	ポーランド	2015.11.30	有	学生・教員
流域圏科学研究センター	UiT—ノルウェー北極大学生物・水産・経済学部	ノルウェー	2017.9.27	無	学生・教員
インフラマネジメント技術研究センター	中国科学院水利部水土保持研究所	中国	2008.8.12	無	教員
	中国水利水電科学研究院岩土工程研究所	中国	2009.7.24	無	教員
応用生物科学部	チュラロンコン大学理学部	タイ	1994.3.15	無	学生・教員
	コンケン大学農学部	タイ	2000.3.27	無	学生・教員
	コンケン大学学部間共同開発研究所	タイ	2000.3.27	無	学生・教員
	国立獣医科学検疫院獣医科学研究所	韓国	2008.11.4	無	教員
	モンゴル国立大学地理地質学部	モンゴル	2012.10.29	無	教員
	ガーナ大学基礎応用科学部	ガーナ	2015.8.20	無	教員
	ラジシャヒ大学農学部	バングラデシュ	2016.12.27	無	教員
	南太平洋大学自然科学・工学・環境学群	フィジー	2017.12.1	無	教員
	カザン連邦大学環境科学部	ロシア	2018.5.18	無	教員
	カザン医学アカデミー	ロシア	2018.12.10	無	教員
	ハンガリー科学アカデミー農学研究センター	ハンガリー	2018.12.10	無	学生・教員
連合農学研究科	チュラロンコン大学理学部	タイ	2012.12.6	有	学生・教員
	チュイロイ大学	ベトナム	2015.6.25	有	学生・教員
	ラオス国立大学林学部	ラオス	2018.3.21	有	学生・教員
連合獣医学研究科・共同獣医学研究科	ガーナ大学基礎応用科学部	ガーナ	2015.8.20	無	教員
連合創薬医療情報研究科	カフル・エル・シェイク大学獣医学部	エジプト	2009.11.15	有	学生・教員
	タイビン医科薬科大学医・薬科学技術センター	ベトナム	2020.3.31	無	学生・教員
複合材料研究センター	EMC 2 クラスタ・IRT ジュール・ヴェルヌ	フランス	2014.3.13	無	学生・教員
地域連携スマート金型技術研究センター	台湾国立高雄科技大学先端金型研究開発センター	台湾	2019.12.27	無	学生・教員
科学研究基盤センター	タイビン医科薬科大学医・薬科学技術センター	ベトナム	2020.3.31	無	教員

※ 1, 2 南フロリダ大学との「医療従事者交流プログラム」においては、授業料等相互不徴収：有、交流対象者：学生・教員



### 3. 本学の国際関連活動

#### ●学長表敬訪問（来訪）

日付	国・地域	訪問者	目的
8月3日	リトアニア (駐日リトアニア共和国大使館)	オーレリウス・ジーカス駐日リトアニア共和国大使、クリステイナ・ミネイキエネ駐日リトアニア共和国農業参事官	表敬あいさつ、国際交流に関する意見交換
8月24日	米国 (在名古屋米国領事館)	マシュー・センサー首席領事	表敬あいさつ、国際交流に関する意見交換
12月22日	インド (インド工科大学グワハティ校)	インド工科大学グワハティ校 ゴード教授、ミトラ准教授、カナガラージ教授、ダス教授	表敬あいさつ、ジョイント・ディグリープログラムに関する意見交換
2023年1月24日	リトアニア (ヴァイタウタス・マグヌス大学)	高木伽耶子講師	表敬あいさつ、国際交流に関する意見交換

#### ●学長メッセージ

日付	国・地域	相手先	内容
6月29日	中国	内蒙古師範大学	内蒙古師範大学創立70周年事業への祝辞メッセージ
6月29日	中国	内蒙古農業大学	内蒙古農業大学創立70周年事業への祝辞メッセージ
2023年1月11日	タイ	カセサート大学	カセサート大学創立80周年事業への祝辞メッセージ

#### ●令和4年度国際関連事業一覧

令和5年2月27日現在

開始	終了	名称	参加人数	主催
4月	2月	オンラインによる就活個別相談（日本語・英語・中国語）	-	愛岐
4月25日		2022年夏期 ESL・EST 説明会	62	機構
4月28日		2022年夏期 ESL・EST 説明会	72	機構
5月	7月	キャリア日本語演習	9	機構
5月9日		2022年夏期 EST 説明会	19	機構
5月27日		グローバル化のためのSDGs勉強会（第1回）	36	機構
6月1日		愛岐留学生就職支援コンソーシアム実務委員会	6	愛岐
6月8日		外国人留学生向け就職ガイダンス	-	愛岐
6月15日		南フロリダ大学修士学生の学長訪問	10	保健
6月17日		リトアニア勉強会	24	工
6月22日	7月6日	岐阜大学サマースクール2022（オンライン）	中止	機構
6月22日		外国人学生との交流会	13	機構
6月24日		グローバル化のためのSDGs勉強会（第2回）	26	機構
6月24日		外国人学生との交流会	11	機構
6月29日		海外渡航危機管理オリエンテーション	81	機構
6月28日		インドネシア伝統楽器アングルンを用いた音楽教育（インドネシア教育大学との共同企画）	90	教育
7月1日		相生小学校児童と留学生の交流会	51	機構（日セ）
7月5日		南フロリダ大学（USF）学生との交流会	8	医学
7月6日		岐阜地域留学生交流推進協議会 総会	34	機構
7月7日		JD学生（岐阜大学、IITG、UKM）による学長表敬	18	機構
7月13日		全国大学JDP協議会幹事会	20	機構
7月14日		国際教養プログラム学生向け留学説明会・オンライン交流会	14	地域
7月22日		グローバル化のためのSDGs勉強会（第3回）	23	機構
7月27日		留学生と日本人学生のための能楽（能・狂言）ワークショップ	41	機構（日セ）
7月27日		グリフィス大学 ESL プログラム事前交流会	28	機構
7月27日		アルバータ大学 ESL プログラム事前交流会	6	機構
7月29日		ベトナム・トゥアティエン＝フエ省人民委員会来岐（学長臨席）	28	機構
8月1日		岐阜大学インドネシア同窓会事務局長来学・打合せ	9	機構
8月3日		駐日リトアニア大使学長表敬訪問	9	機構
8月6日	9月4日	夏季グリフィス大学（オーストラリア）ESL プログラム	31	機構
8月7日		日本語・日本文化研修留学生修了論文発表会	35	機構（日セ）
8月7日	8月28日	夏季アルバータ大学（カナダ）ESL プログラム	6	機構
8月24日		名古屋米国総領事館学長表敬訪問	9	機構
8月25日		リトアニア勉強会	15	工
9月1日		リトアニア市民講座	16	岐阜県・工
9月16日		グローバル化のためのSDGs勉強会（第4回）	34	機構
9月28日		日印交流プラットフォーム構築プログラム（JIEPP）関係機関連絡会	7	JIEPP
9月29日		リトアニア勉強会	16	工
9月30日		日印交流プラットフォーム構築プログラム（JIEPP）第4回日印交流セミナー	8	JIEPP
10月		（国際月間）学長からのメッセージ配信	129	機構
10月5日		外国人留学生向け就職活動支援講座	-	愛岐

開始	終了	名称	参加人数	主催
10月7日		(国際月間) 旅行作家・蔵前 仁一氏 講演会	76	機構
10月17日	2月2日	事務系職員 TOEIC 受験	92	機構
10月19日		(国際月間) 協定大学の学生とのオンライン交流会 (ヴィータウタス・マグヌス大学(リトアニア))	19	機構
10月21日		(国際月間) 協定大学の学生とのオンライン交流会 (リール大学 (フランス))	15	機構
10月24日	10月31日	事務系職員アルバータ大学オンラインビジネス英会話研修	10	機構
10月25日		全国大学ジョイント・ディグリープログラム協議会 第1回総会	109	機構
10月26日		企業交流プログラム (愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップ)	34	機構
10月28日		グローバル化のためのSDGs勉強会 (第5回)	17	機構
11月	2月	キャリア日本語演習	7	機構
11月9日		JICA タジキスタン・プロジェクト研修員の訪問	9	産官学
11月9日		附属学校生 (中学1年生) の外国人留学生へのインタビュー	19	附属学校
11月9日		ラウンドテーブル IC-GU12 10th Roundtable Meeting 2022	20	連農
11月9日		ジョイントセミナー The 1st International Joint Seminar on Agricultural Science and Biotechnology	120	連農
11月9日		ポスターセッション UGSAS-GU & BWEL Joint Poster Session on Agricultural and Basin Water Environmental Sciences 2022	60	連農
11月9日		外国人留学生向け就職活動支援講座	-	愛岐
11月16日		秋の海外留学フェア	27	機構
11月16日		外国人留学生向け就職活動支援講座	-	愛岐
11月25日		グローバル化のためのSDGs勉強会 (第6回)	27	機構
11月26日		第21回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会	9	岐留協
11月29日		上海外国語大学賢達学院に留学説明会	150	機構
11月30日		全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議 国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会	-	合同会議協 議会
11月30日		岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2022(東海国立大学機構 JDP シンポジウム)	84	機構
11月30日		岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2022 (学術セッション)	43	機構
12月1日		岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2022 (産官学金連携セッション)	84	機構
12月12日	12月26日	岐阜大学インタースクール2022	9	機構
12月14日		日本文化ワークショップ雅楽カルチャー体験コンサート	32	機構 (日七)
12月14日		外国人留学生向け就職活動支援講座	-	愛岐
12月16日		グローバル化のためのSDGs勉強会 (第7回)	45	機構
12月21日		English Circle of Friends	26	機構
12月22日		IITG 教員学長表敬	4	機構
1月3日	1月8日	マレーシア国民大学 (UKM) へ訪問	5	機構
1月17日		郡上市職員特別研修 (観光立市郡上異文化コミュニケーション研修) 事前講義	15	機構 (日七)
1月18日		English Circle of Friends	12	機構
1月18日		FD 兼留学報告会	36	地域
1月21日		郡上市職員特別研修 (観光立市郡上異文化コミュニケーション研修) 現地研修	20	機構 (日七)
1月23日		日印大学フォーラム (学長、久米先生 (工)、海老原先生 (応))	3	JST
1月23日		リトアニア勉強会	37	工
1月24日		VMU 教員学長表敬	1	機構
1月25日		留学生の安全・防犯に関するFD/SD	-	名古屋大
1月25日		インド工科大学ハイデラバード校 (IITH) ムルティ学長との意見交換会	3	JICA
1月27日		グローバル化のためのSDGs勉強会 (第8回)	29	機構
1月31日		第5回 JIEPP シンポジウム (小山副機構長)	-	JIEPP
2月7日	2月11日	南フロリダ大学 (USF) 教員訪問	1	医学
2月14日		附属学校生と留学生の交流会	9	附属学校
2月16日		岐阜県世界青年友の会国際交流イベント (大垣市立日新小学校に留学生派遣)	10	機構
2月24日		グローバル化のためのSDGs勉強会 (第9回)	34	機構
2月26日	2月27日	大学の国際化促進フォーラム 立命館大学ワークショップ参加	-	立命館大
3月1日		国立中央大学 (中華民国 (台湾)) 教員訪問	-	地域
3月1日	3月3日	サンディエゴ州立大学 (SDSU) 教員訪問	2	地域
3月1日	3月7日	インド工科大学グワハティ校 (IITG) へ教員訪問、日印二国間シンポジウム2023 (IJBS-2023) 開催	11	機構
3月1日	3月16日	スプリングスクールプログラム (インド工科大学グワハティ校へ学生派遣) ※学生10名、引率3名	13	機構
3月7日	3月12日	インド工科大学グワハティ校 (IITG) 教員招へい	6	機構
3月9日	3月10日	GILP (Japan-India Educational Collaborated Certificate Programs) シンポジウム	76	機構
3月10日		Collaborative Video Making Program Final Competition	45	機構
3月14日		岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会 4 大学打合せ	-	岐留協
3月16日	3月21日	リトアニア (VMU) 教員訪問	7	機構・連農
3月18日		リトアニア勉強会	5	工
3月20日		JDP コンソーシアム竹資源利用勉強会	37	機構
3月20日		大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～ 第1回採択校連絡会 (小山副機構長)	-	広島大
3月27日	3月31日	マレーシア国民大学 (UKM) 教員訪問	4	機構・工学
合	計	101件		(参考: 昨年度120件)

※参加人数について、来訪の場合は来訪者人数



## 4. 大学間学術交流協定先との交流状況

種 別		教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入
アメリカ	サンディエゴ州立 大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	1
		2022	2	0	2
	ノーザンケンタッキー 大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	2
		2022	1	0	13
	ユタ州立大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	ユタ大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
南フロリダ大学	2020	0	0	0	
	2021	0	0	0	
	2022	3	0	2	
小 計		6	0	20	1
インド	アッサム大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	インド工科大学 グワハティ校	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	25	10	13
小 計		25	10	13	14
インドネシア	アンダラス大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	1	0
	ガジャマダ大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	1	0	0
	スプラス・マレット 大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	バンドン工科大学	2020	-	-	-
		2021	-	-	-
		2022	0	0	0
	ブラヴィジャヤ大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	ボゴール農科大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	4	0
ランボン大学	2020	0	0	0	
	2021	0	0	0	
	2022	0	1	0	
小 計		1	6	0	1
エジプト	ベンハー大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	小 計		0	0	0

種 別		教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入
オーストラリア	グリフィス大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	5	0	33
	シドニー工科大学	2020	0	0	1
		2021	0	0	0
		2022	0	0	3
小 計		5	0	37	0
カナダ	アルバータ大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	3	0	6
	マギル大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	レイクヘッド大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
2022		0	0	1	
小 計		3	0	7	0
韓国	高麗大学校	2020	0	0	0
		2021	0	0	1
		2022	0	0	1
	ソウル科学技術 大学校	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	木浦大学校	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
小 計		0	0	2	0
スウェーデン	ルンド大学	2020	0	0	0
		2021	-	-	-
		2022	-	-	-
小 計		0	0	0	0
スペイン	サラマンカ大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
小 計		0	0	0	1
タイ	カセサート大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	1	0	0
	タイ教育省基礎教育 委員会	2020	0	0	0
		2021	-	-	-
		2022	-	-	-
	チェンマイ大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	1
	キングモンクット 工科大学トンブリ校	2020	0	0	0
2021		0	0	0	
2022		1	0	0	
小 計		2	0	1	3

種 別		教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入
中国	内蒙古師範大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	内蒙古大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	内蒙古農業大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	華僑大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	吉林大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	広西大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	江南大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
2022		0	0	0	
浙江大学	2020	0	0	0	
	2021	0	0	0	
	2022	0	0	0	
電子科技大学	2020	0	0	0	
	2021	0	0	0	
	2022	0	0	0	
同済大学	2020	0	0	0	
	2021	0	0	0	
	2022	2	0	0	
小 計		2	0	0	7
ドイツ	エルフルト大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	2
		2022	0	0	2
	バイロイト大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
小 計		0	0	4	0
ハンガリー	パンノン大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
小 計		0	0	0	0

種 別		教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入
バングラデシュ	ダッカ大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	バングラデシュ 農業大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
小 計		0	0	0	0
フィリピン	マリアノ・マルコス 州立大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	5	0	0
小 計		5	0	0	0
ブラジル	カンピーナス大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
小 計		0	0	0	0
フランス	パリ・サクレ大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
	リール大学	2020	0	1	0
		2021	0	0	0
		2022	2	1	0
小 計		2	2	0	4
ベトナム	ハノイ工科大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	1	0	0
	フエ大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
小 計		1	0	0	2
マレーシア	マレーシア国民大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	17	0	3
小 計		17	0	3	4
リトアニア	ヴィータウタス・ マグヌス大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	12	3	0
	カウナス工科大学	2020	0	0	0
		2021	0	0	0
		2022	0	0	0
小 計		12	3	0	0
合 計		2020	0	1	1
		2021	0	0	6
		2022	81	21	87
総 計		81	22	94	42



## 5. 海外オフィス・研究施設

### ●岐阜大学海外オフィス

設置場所	国・地域	設置時期
岐阜大学上海オフィス	中国	2009年5月
岐阜大学ダッカ大学内オフィス	バングラデシュ	2009年8月
岐阜大学スプラス・マレット大学オフィス	インドネシア	2014年12月
岐阜大学広西大学内オフィス	中国	2015年3月

### ●共同研究施設

設置場所	国・地域	設置部門	設置時期
ボゴール農科大学	インドネシア	天然物化学	2014年12月
スプラス・マレット大学	インドネシア	環境科学	2014年12月
ダッカ大学	バングラデシュ	生化学	2015年10月
カセサート大学	タイ	微生物学	2016年2月
アンダラス大学	インドネシア	ポストハーベスト工学	2016年11月
キングモンクット工科大学トンブリ校	タイ	ポストハーベスト工学	2017年9月

## 6. 国際共同研究等の採択実績

### ●（公財）田口福寿会国際学術交流助成金採択一覧

公益財団法人田口福寿会助成事業の助成金により、本学と学術交流協定を締結している外国の大学との交流を促進し、教育・研究の向上を図るため、協定大学との共同研究を行う者に対して助成を行った。令和2年度以前は、海外派遣・招へいに係る旅費助成を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により派遣・招へいが困難となったことを受け、令和3年度以降は、渡航を伴わない共同研究に対しても支援を行うものとし、外国旅費のほか、論文投稿費（英文校正費含む）、オンラインミーティングのライセンス取得に係る費用、消耗品費に対する助成を行った。

区分	採択者	学術交流先	研究課題	派遣・招へい期間
派遣	教育学部 林 日佳理 (助教)	アルバータ大学 (カナダ)	ウィズ・コロナの時代における大学レベルの専門的英語短期留学プログラムの分析と開発	8月7日-8月27日 (21日間)
	保健管理センター 三輪 貴生 (助教)	南フロリダ大学 (米国)	大学生の肝障害・肥満・サルコペニアと背景因子の実態解明とその介入モデルの確立	8月24日-9月3日 (11日間)
消耗品費等	教育学部 勝田 長貴 (准教授)	モンゴル国立大学 地理地質学部 (モンゴル)	集水域から湖に至る水と湖底泥の系統的な分析と変動因子の検出	-
	工学部 萬関 一広 (准教授)	チュラロンコン大学理学部 (タイ)	天然物（光吸収物質）の導入に着目した新しいタイプの固体型色素増感太陽電池の開発	-

## 7. 留学生の就職支援・留学生の地域貢献

### ●留学生の地域イベント等への派遣実績

日時	事業名	主催者	参加人数
6月24日	鶴飼交流会	国際ソロブチミスト岐阜	16
12月21日	クリスマスプレゼント会	国際ソロブチミスト岐阜	35
2023年2月14日	岐阜市めぐり	岐阜大学教育学部附属学校	9
2023年2月16日	岐阜大学留学生との交流会（大垣市立日新小学校）	岐阜県世界青年友の会（大垣市立日新小学校）	10

対応件数：4件

派遣数：70名

## 8. 令和4年度における各種広報資材

### ●国際協働教育推進関連

#### (1) 岐阜ジョイントディグリープログラムシンポジウム 2022 in Webinar

4回目となるジョイント・ディグリーシンポジウムはオンライン及び一部対面で開催。

岐阜ジョイントディグリープログラムシンポジウム 2022 in Webinar フライヤー (A4, 1P)



岐阜ジョイントディグリープログラムシンポジウム 産官学金連携セッション フライヤー (A4, 1P)



#### (2) Collaborative Video Making Program (CVMP)

令和2年度より開催しているオンラインによるジョイント・ディグリー協定校間学生交流プログラム。

Collaborative Video Making Program 学生募集用ポスター (A4, 1P)



CVMP Final Competition フライヤー (A4, 1P) 日英で作成。



### (3) ウィンタースクール

平成27年度から開催している JD 協定校の IITG 及び UKM からの留学生招へいプログラム。

ウィンタースクールフライヤー (A4, 1P)

### (4) スプリングスクールプログラム

平成30年度から開催している JD 協定校の IITG への学生派遣プログラム

スプリングスクールプログラムフライヤー (A4, 1P)

### (5) GILP シンポジウム

JDP の学生が企画・運営し、IITG との共催により開催したサテライトシンポジウム。

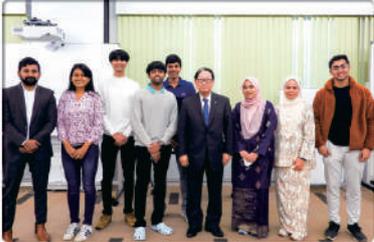
GILP シンポジウムフライヤー (A4, 1P)

## (6) ウィンタースクール報告書 (A4, 8P)

令和4年度ウィンタースクールの活動報告書を作成した。

### THE 6<sup>TH</sup> WINTER SCHOOL REPORT

DECEMBER 12-26, 2022







### Overview of the 6th Winter School Program

**Objectives:**  
In April 2019, Gifu University launched International Joint Degree Programs (JDP) with both Indian Institute of Technology, Guwahati (IITG) and Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM). The Winter School is designed to provide opportunities to students from those institutions who are considering graduate studies a better understanding of Gifu University and Japan. The participants learn Japanese language and culture, visit industry-related companies and facilities, also engage in laboratory work. Gifu University hopes that the participants will serve as a bridge between IITG/UKM and Gifu University, and play a role in fostering mutual understanding for years to come.

**Number of Participants:**  
8 students from IITG  
(5 male and 1 female, 5 undergraduates and 1 masters)  
2 students from UKM  
(2 female, 2 masters)

**Contents:**

- ▶ Opening Ceremony
- ▶ Japanese Class
- ▶ Gathering with Gifu University Students
- ▶ Japanese Culture Experience (Gagaku)
- ▶ Tokyo Excursion
- ▶ Laboratory Experience
- ▶ Off-Campus Lecture at Tajiri City
- ▶ Accomplishment Reports and Closing Ceremony




### Opening Ceremony

**December 12 (Mon.)**  
Opening ceremony was held in the University Library Meeting Room. After an opening speech by Dr. KAMBARA Shiro (Vice President (International Affairs, Information and (Deputy in Charge for) Evaluation), the participants introduced themselves and enjoyed communicating with other participants, relevant professors and tutor students.




### Japanese Class

**December 13 (Tue.), December 20 (Tue.) and 22 (Thu.)**  
Japanese Class was held in the Center for Japanese Language and Culture. Japanese language lessons were offered to the participants. They learned basic Japanese language over a total of nine-hour class sessions.



### Gathering with Gifu University Students

**December 13 (Tue.)**  
Gathering with Gifu University Students was held in Teaching Staff Office of GU-GLOCAL. Winter School participants met Gifu University JDP students, Spring Program participants and Collaborative Video Making Program (CVMP) participants and enjoyed talking with each other. Spring Program and CVMP are exchange activities with Gifu University, IITG and UKM students. This gathering helped all participants get to know each other.



JDP  
(IITG/UKM degree programs)



Spring Program



Collaborative Video Making Program




### Japanese Culture Experience (Gagaku)

**December 14 (Wed)**  
Japanese Culture Experience (Gagaku, Japanese old court music) was held in Waseitau (Japanese style room) in the Center for Japanese Language and Culture. The participants took part in the event with Gifu University Nikkensei and Japanese language class students. They enjoyed the beautiful Japanese traditional culture. The first part of the event was a concert and a lecture about history. In the second part, students had chances to try instruments and costumes.






### ▶ Tokyo Excursion

**December 15 (Thu) – December 16 (Fri)**

This excursion was set up for the participants to learn more about Japanese industry and companies. Prior to the excursion, the participants took a special lecture about Japanese industry and companies on December 14 (Wed). During the Tokyo Excursion, the participants had a chance to visit a major institute, company and government organization in Aichi, Tokyo and Kanagawa for the first time. They took a tour of the Japan Fine Ceramics Center (Aichi), JICA Global Plaza (Tokyo), Sinfonia Technology Co., Ltd. (Tokyo) and Institute of Food Sciences and Technology, Ajinomoto Co., Inc. (Kanagawa). We would like to express our appreciation to all the staff of the companies for offering a warm welcome to the participants.

JICA/Japan International Cooperation Agency



### ▶ Laboratory Experience

**December 19 (Mon)**

This experience was set up for the participants to learn more about the soil and ceramics of Japan. In the first part of the Laboratory Experience, participants took the lecture on the overview of earthen and ceramic wares. In the second part, participants learned about the Scanning Electron Microscope (SEM) and the Energy Dispersive X-ray Spectroscopy (EDX) at Instrumental Analysis Center and experienced the analysis with SEM and EDX.



### ▶ Off Campus Lecture at Tajimi City

**December 21 (Wed)**

This Off Campus Lecture was set up for the participants to learn more about Mino ceramic ware, which is one of the famous local industries in Gifu. The participants visited the Mino Ceramic Art Museum, Tajimi (Gifu) and learned about the Mino ware. They had a chance to experience a tea ceremony with using Mino ware. Participants also visited the Kokeigama (potter of Mino ware). After the facility tour, participants tried pottery making. The participants reviewed their Off Campus Lecture on December 22 (Thu).



### ▶ Accomplishment Reports and Closing Ceremony

**December 26 (Mon)**

On December 26, the final day of Winter School 2022, Accomplishment Reports session was held in Learning Commons 1A and 1B of General Education Building. Dr. YOSHIDA Kazuhiro, President of Gifu University, relevant professors and students joined this session. The participants gave a short speech about the activities in Winter School with their posters. In just two week-long school activities, the participants did their best and looked confident of their achievements. At the Closing Ceremony, Dr. UEMATSU Yoshitaka (Executive Director of GILU GLOBAL<sup>TM</sup>) awarded the Certificate of Completion to each participant. The participants, professors and students seemed hard to say goodbye to one another and are expecting to be reunited again. The 6th Winter School Program marked another successful milestone in the history of winter school programs.

GILU-GLOBAL<sup>TM</sup> Gifu University organization for promotion of globalization



## Questionnaire to Participants of Winter School 2022

### 1. Satisfaction with the 6th Winter School



### 2. Comments from participants

- ▶ I enjoyed each activity that was planned during this program. I learned a lot of new things and because of this program I am intrigued to continue my doctoral program here. I am grateful that I was chosen on this program. I hope that there is a next chance for me to come here again.
- ▶ I really love this program so much, got many experiences and knowledge about Japan. I absolutely will come again to Japan if there is another opportunity.
- ▶ The program was very good and provided us with a new and better perspective of Japan, Japanese culture and student life. The exposure I got will definitely help me decide on the right direction for my career. It has made me extremely interested in my possible future prospects at Japan. I am very grateful to Gifu University for organizing the program.
- ▶ Participating in the Gifu University Winter School was an incredibly enriching experience. The opportunity to immerse myself in the culture and traditions of Japan, while also gaining a deeper understanding of the country's industries and economy was truly invaluable. The program's balance of cultural activities and visits to industries combined with Japanese Language classes gave me a well-rounded perspective on Japan and I came away with a greater appreciation for the country and its people.
- ▶ It was an overall excellent program and thank you very much for hosting us.



**GIFU UNIVERSITY**

International General Affairs Office  
Gifu University Organization for Promotion of Globalization  
1-1 Yanagido, Gifu City, Gifu, JAPAN



## ● 地域国際化推進関連

### (1) グローバル化のための令和4年度SDGs勉強会（計9回）

学生・教職員・地域企業を対象とした地域社会の国際化に向けたSDGs勉強会を実施。

グローバル化のための令和4年度SDGs勉強会  
フライヤー（A4, 1P）

第1回	5月27日(金) 15:00-16:00	コロナを克服へ向けた カーボンニュートラルに近づける道	佐藤 真平 氏 (東海大学環境生物科学部)
第2回	6月24日(金) 15:00-16:00	カーボンニュートラルを推進した 人材育成	山崎 真穂子 氏 (長岡技術科学大学環境学部)
第3回	7月22日(金) 15:00-16:00	最先端ICT実務材料開発への 高度実践的学習法の応用	藤田 智 氏 (東海大学工学部)
第4回	8月19日(金) 15:00-16:00	産業界のカーボンニュートラル に向けた実践的学習	野村 夏樹 氏 (京浜東北線)
第5回	10月28日(金) 15:00-16:00	次世代発電の発展の目指す道	小崎 智哉 氏 (東海大学工学部)
第6回	11月25日(金) 15:00-16:00	SDGs達成に向けたSDGs推進 推進戦略	佐藤 真平 氏 (アライズデザイン・デザイン・デザイン)
第7回	12月1日(金) 15:00-16:00	経営デザインが鍵(Look Zero 事業創出)	中野 温平 氏 (東海大学経営学部)
第8回	令和4年12月1日(金) 15:00-16:00	「多文化共生の推進づくり」 「認知機能での自己啓蒙教育」	高橋 真希 氏 (津波院 link design lab)
第9回	令和4年12月1日(金) 15:00-16:00	グローバル化のためのSDGsと 地域社会の未来	山崎 真穂子 氏、佐藤 真平 氏 (東海大学グローバル化推進機構/地域国際化推進センター)

お問い合わせ: 国際事務局 国際総務課 kokusaik@gifu-u.ac.jp  
申し込み方法: 詳細はグローバル化推進機構ホームページをご覧ください。  
URL: https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/region/tdgs/session/  
主催: 東海大学グローバル化推進機構

## ●留学促進関連

### (1) 留学フェア

本学学生に向けた、グローバル推進機構主催の各種留学プログラムを紹介するイベントを11月に実施。

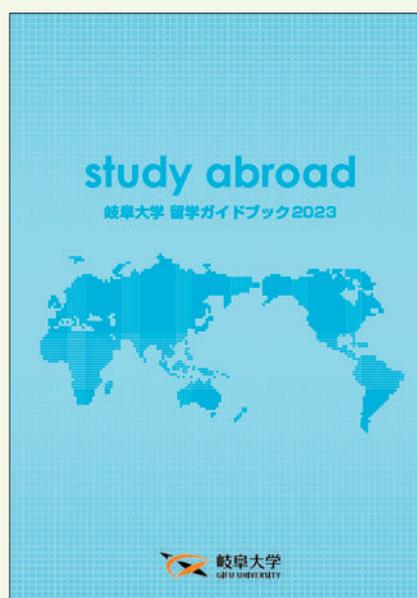
海外留学フェア2022秋フライヤー (A4, 1P)



### (2) study abroad

本学学生に向けた留学ガイドブックを発行。留学に必要な手続きや協定大学の情報等が掲載されており、本学HP上でも公開している。

study abroad 岐阜大学 留学ガイドブック2023 (A4, 32P)



### (3) 夏期 ESL・EST 留学説明会

夏休みに開催される海外協定大学へのオンライン形式の留学プログラムに関する説明会。

オンライン留学説明会フライヤー (A4, 1P)







## ●国際企画関連

### (1) NEWS Letter

年2回発行している対外的な広報フライヤー。令和4年度は53号(10月)と54号(3月)を日英でそれぞれ発行。新生へも配付している。

NEWS Letter 2022 October 53 (A 4, 4 P) 日英で作成

NEWS Letter 2023 March 54 (A 4, 4 P) 日英で作成



### (2) 秋の国際月間

10月に国際月間を開催し、国際交流の各種イベントを実施。

秋の国際月間フライヤー (A 4, 1 P) 日英で作成



### (3) 僕は旅人 蔵前仁一氏講演会

国際交流のイベントとして、旅行作家の蔵前氏による特別講演会を実施。

蔵前仁一氏講演会フライヤー (A 4, 1 P)



## ● 留学生就職促進関連

### (1) 外国人留学生向け就職ガイダンス

外国人留学生を対象とした就職ガイダンスを対面とオンラインの同時配信で実施した。

外国人留学生向け就職ガイダンスフライヤー (A4, 1P)  
日英で作成

**外国人留学生向け就職ガイダンス  
「夏インターンシップ  
に向けた準備」**

【日時】2022年 6月8日(水)  
10:30~12:00 (言語:日本語)  
15:00~16:30 (言語:英語)

【内容】・日本の就職活動の流れ  
・コロナ禍での就活対策  
・夏インターンシップに向けた準備

【開催場所】岐阜大学 大会館2階 第6集会室  
※Zoomにて同時配信

備前予定の方、  
また決めていない方も歓迎！ 絶対日本で就職したい方には、  
秋の「就職活動支援講座」等  
で全面支援！

お問合せ・お申込 岐阜大学 教育推進・学生支援機構  
キャリア・就職支援センター(就職支援室)  
参加希望者は就職支援室に以下の内容をメールしてください。  
件名「6/8(水) / インターンシップ」 申込期間: 6/6(月)  
本文 1. 氏名 2. 学部/研究科 3. 学年 4. 学籍番号 5. 連絡先 (E-mail, Tel)  
6. 指導教員の氏名  
E-mail: job@gifu-u.ac.jp Tel: 058-293-2147 愛校留学生就職支援コンソーシアム

### (2) 外国人留学生向け就職活動支援講座

外国人留学生を対象とした就職活動支援講座を実施した。

外国人留学生向け就職活動支援講座フライヤー (A4, 1P)  
日英で作成

**外国人留学生向け (For International Students)  
就職活動支援講座** 2022年度  
Job Hunting seminar 日本語: 10:30~12:00  
英語: 15:00~16:30

第1回 業界・企業分析 10月5日(水)  
自分の専攻が活かせる業界・企業・職種の理解  
日本企業の考え方、母国企業との違いを知る

第2回 競争力のある応募書類の作成① 11月9日(水)  
面接につながるES(エントリーシート)やCV(履歴書)に何を書く? 企業の視点を知る

第3回 競争力のある応募書類の作成② 11月16日(水)  
三大質問への対策(志望動機・学チカ・自己PR)

第4回 各種面接への対策 12月14日(水)  
個人、集団面接、GDではなにが評価点?  
WEB面接をはじめ、各種面接の基本動作・対策

講師紹介 経歴: 中国出身。2000年に留学生として来日。製造業で人事採用を経験し、2009年にKeiseiを設立し、日本全国で外国人留学生の就職支援事業を展開。これまで2500名以上の外国人留学生の就職支援をしてきました。

お問合せ・お申込 岐阜大学 教育推進・学生支援機構  
キャリア・就職支援センター(就職支援室)  
参加希望者は就職支援室に以下の内容をメールしてください。  
件名「10/5(水) / 就職活動支援講座」 申込期間: 10/3(月)  
本文 1. 氏名 2. 学部/研究科 3. 学年 4. 学籍番号 5. 連絡先 (E-mail, Tel)  
6. 指導教員の氏名  
E-mail: job@gifu-u.ac.jp Tel: 058-293-2147 愛校留学生就職支援コンソーシアム

### (3) 岐阜地区ワークショップ

愛校留学生就職支援コンソーシアムと岐阜大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、日本貿易振興機構、岐阜県貿易情報センターの共催で外国人留学生を対象としたワークショップを開催した。

岐阜地区ワークショップフライヤー (A4, 1P) 日英で作成

**外国人留学生対象**  
留学生のための就職支援プログラム  
2022年度 愛校留学生就職支援  
コンソーシアム  
**岐阜地区  
ワークショップ**

参加費無料

日時 2022.10.26(水) 13:15~16:30 岐阜大学全学共通教育講義棟105講義室  
会場 コモンズA-1B 1303/1103 研修室(1階)

対象 留学生 20名程度/企業 30名程度

主催 愛校留学生就職支援コンソーシアム構成大学の留学生・岐阜地区留学生就職支援協議会構成大学の留学生・市内企業等

13:15~13:45 開会  
13:45~14:50 開会の挨拶  
13:50~14:50 第1回「外国人材活用推進文化共生拠点から見た文」  
— 岐阜県内の企業文化、企業での外国人材活用  
— 企業人事、経営者、経理担当者の視点  
14:50~15:00 休憩  
15:00~16:25 第2回「企業に留学生による  
交流」  
16:25~16:30 閉会の挨拶

申込方法 予約制による事前申し込みを要し、申し込みの締切は、申込・申込の締切までに入社してください。  
申込日 10月13日(木) 15時迄  
申込先 TEL 058-293-2011 E-mail: cghog@gifu-u.ac.jp  
申込料 10,300円

オンラインによる個別カウンセリングを行い、留学生のみぞの就職活動の準備をサポートします。  
安心してお申し込みください。

【主催】 岐阜大学 協賛 日本貿易振興機構 ジェトロ協賛



## ● 広報動画

### (1) Glocal Lesson

「地球規模で考えながら地域の課題を解決する」グローバル人材の育成を目指す岐阜大学グローバル推進機構が配信・対面・リアルタイムで提供する学習プログラムを更新した。

会員登録はこちらから



### (2) Collaborative Video Making Program

Collaborative Video Making Program に参加した岐阜大学、インド工科大学グワハティ校、マレーシア国民大学の学生が協力して作成した、国際交流促進動画。英語で作成。(3分)

HEROES (Group 1)



Change towards Sustainable Environment (Group 2)



our healthy life (Group 3)



Trash Potential (Group 4)



## 編集後記

本年度も、岐阜大学国際交流年報を皆様にお届けできることをたいへんうれしく思っております。新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度以降続いてきた移動制限がようやく緩和され、今年度は学生及び教員の派遣・受入が再開されました。コロナ前の状況には及ばないまでも、多くの学生及び教員が積極的に海外交流した様子が本年度の年報からうかがえます。今後のさらなる交流拡大が期待されます。

さて、このコロナ禍は私たちに、リモート会議やオンライン講義、オンライン交流という新しい交流の形を提供しました。これらは、移動時間や資金の節約などの効率化、また学生にとっては国際交流の入り口として重要な役割を果たしています。オンラインでの交流は、今後も引き続き根付いていくものであると思います。その一方で、オンライン交流の物足りなさを感じるのも事実であり、実際に渡航し相手に会うことで構築される「信頼感」や「協働感」の大切さを実感しました。そんな中、本年度は、「海外協定大学連携強化交流事業」が実施され、コロナ禍で切れかかってしまった絆の再構築が図られました。今後は、オンラインと実渡航のそれぞれのメリットを組み合わせることで、より深い国際交流が展開されることを祈っております。

最後になりましたが、リトアニアの文化や交流の様子を紹介していただいた毛利哲也先生、前グローバル推進機構長として国際交流、特に昨年度採択されましたインドとの世界展開力強化事業の展開を力強くけん引していただいた植松美彦先生にはこの場をおかりしてお礼申し上げます。

2023年6月

編集担当  
年報ワーキンググループ  
応用生物科学部 柳瀬 笑子

## 岐阜大学グローバル推進機構 国際企画部門 年報ワーキンググループ

柳瀬 笑子（応用生物科学部）  
佐々木 彩子（医学部）  
小林 恵子（グローバル推進機構）  
松井 真弓（グローバル推進機構）  
グローバル推進機構国際総務室・留学支援室

## 岐阜大学国際交流年報2022

---

---

2023年6月 発行

編集

## 岐阜大学グローバル推進機構

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1  
TEL：058-293-3351  
E-mail：kokusaik@t.gifu-u.ac.jp  
HP：https://www.global.gifu-u.ac.jp/

---

---

印刷・製本 西濃印刷株式会社  
〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

---

---

